

W245
20

江戸名所圖會

十六

永昌寺

東叡山山下の島

養正院

金杖安樂寺

不動堂法印の松

水戸孝範第宅回廊

浪子の塚

熊野権現社

徳島結の糸

廣徳寺

六条天神社

若菜寺圓覺堂

根岸圓光寺

正燈寺

小塚系天主社

子匠大橋

富士湯間宮

西新井法大師堂

梅田の三洗

石浜城跡

牛頭天王洞

天満宮

下谷稻荷社

常樂院

入谷庚申堂

兼輪西光寺

万里小橋寓居之地

飛鳥の神社

光榮池

湯間の淵

大師加持水

天満宮

不動堂

橋場

志保稻荷社

十谷岡

上野坂本口園

小野照濟の神社

時友屋

小東郷

山谷熱田の神社

誓願寺

沼田延命寺

十二天森

六月村八幡宮

誓願の神社

新日神の文

思ひ川

隅田川渡

石浜古戰場

正平合戦之園

新尾不動堂

徳泉寺

袈裟掛松

浅茅の系

好飛塚

滝の池

法源寺

采女塚

玉姫稻荷

東野先生墓

今戸八幡宮

徳水野の系

今戸陶器師

長昌寺

山谷極今戸橋の高

慶養寺

志保山

聖天宮

日本堤

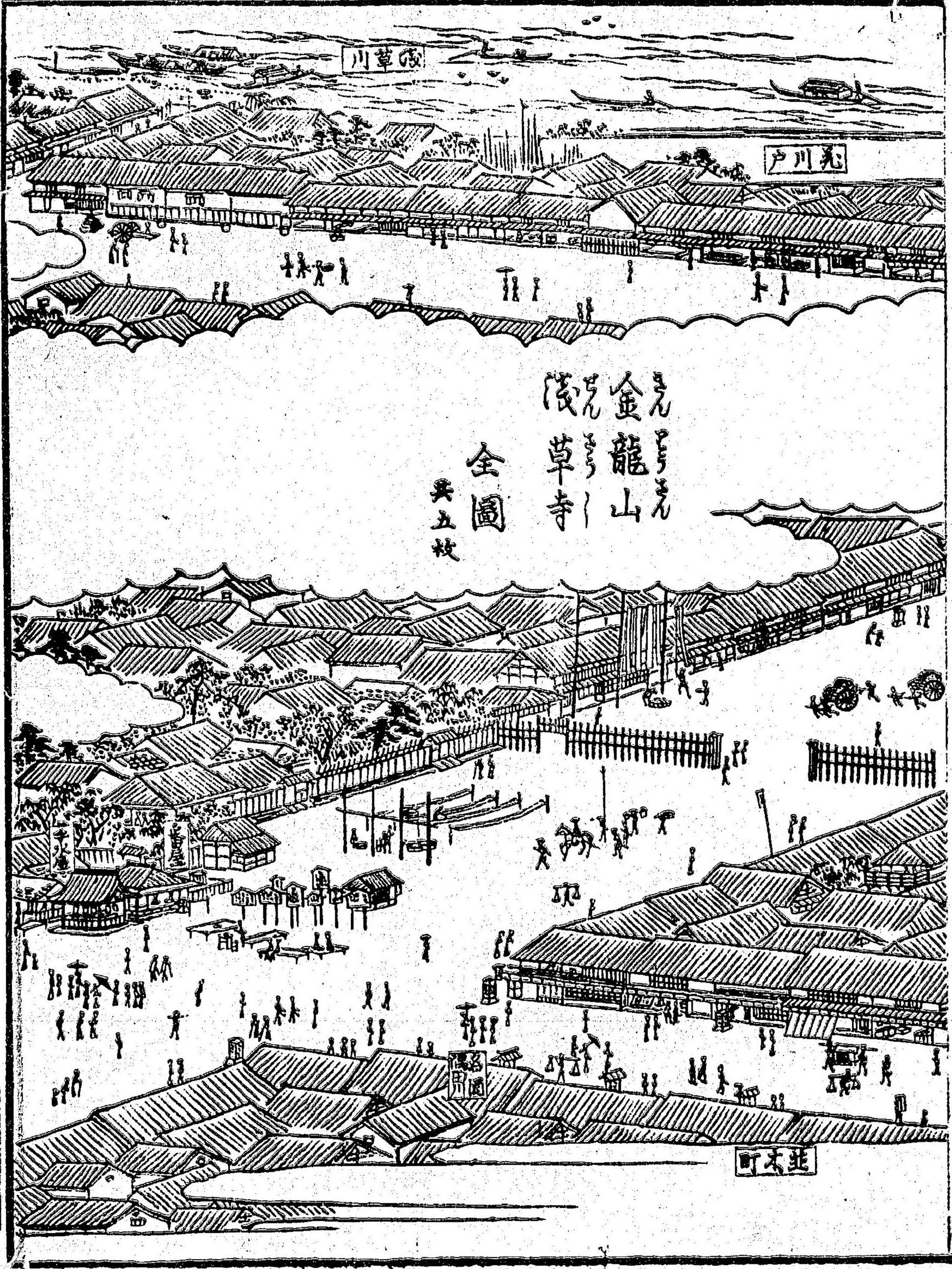
新吉原町

志保山



東國記行
 角田川もええけり
 東の国なる積ありと云
 冥東順禮観を儀まよとま
 布と云んまよりの結縁
 せん一あといひ
 秋もくも本未れ花も
 あはくこの
 露うつれそめ
 角田川くれ
 宗牧

田園雜記
 法草とひつる石よ
 庭小張ねのま毛と
 空れきり
 ようの海まの
 うつ枯り
 花のまをさ
 のこ
 庭くれ
 道真准后

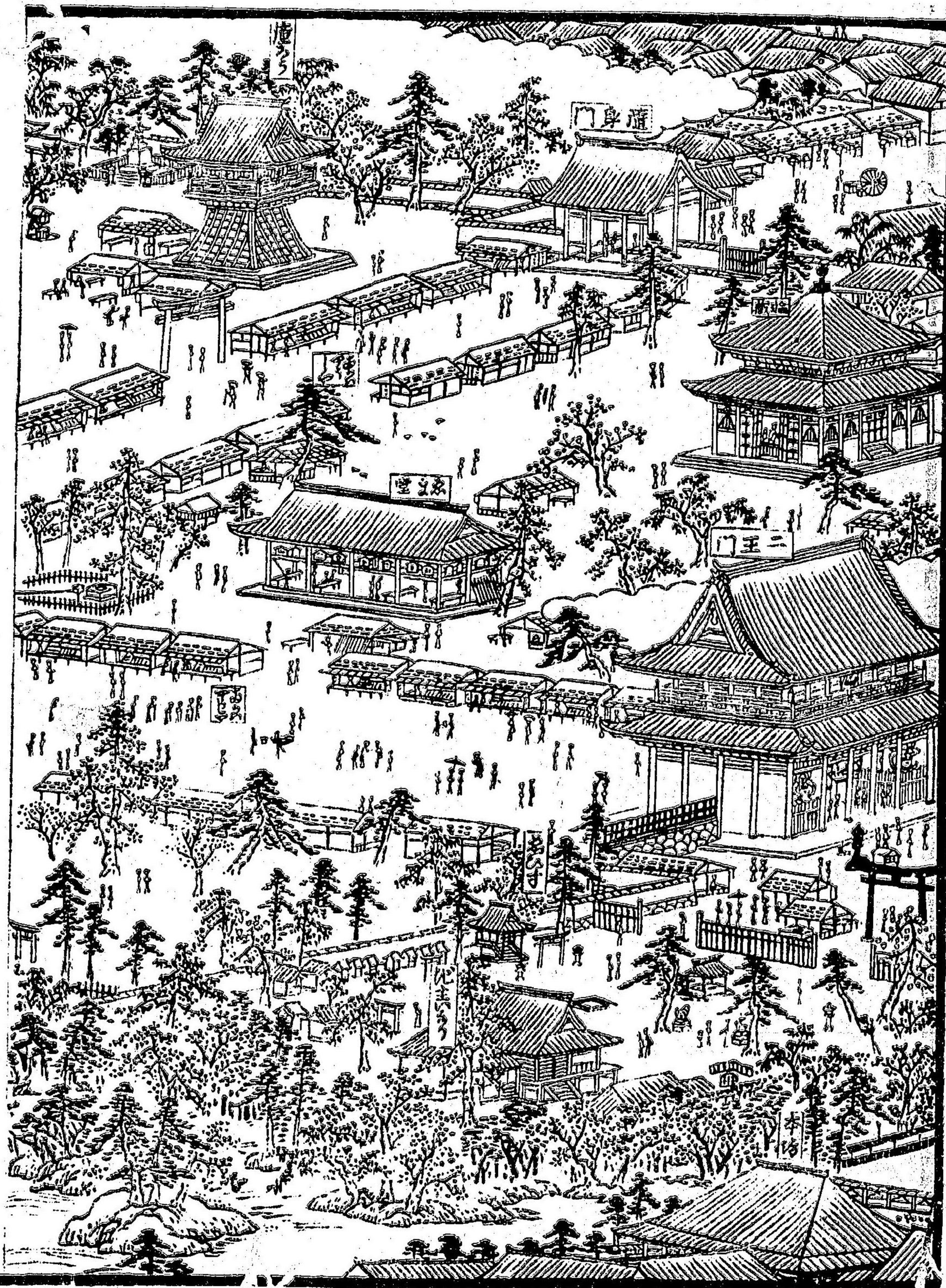


金龍山
 後草寺
 全圖
 共五枚

川草儀

戸川元

町大並



其三

院法傳

院法傳

院法傳

院法傳

院法傳

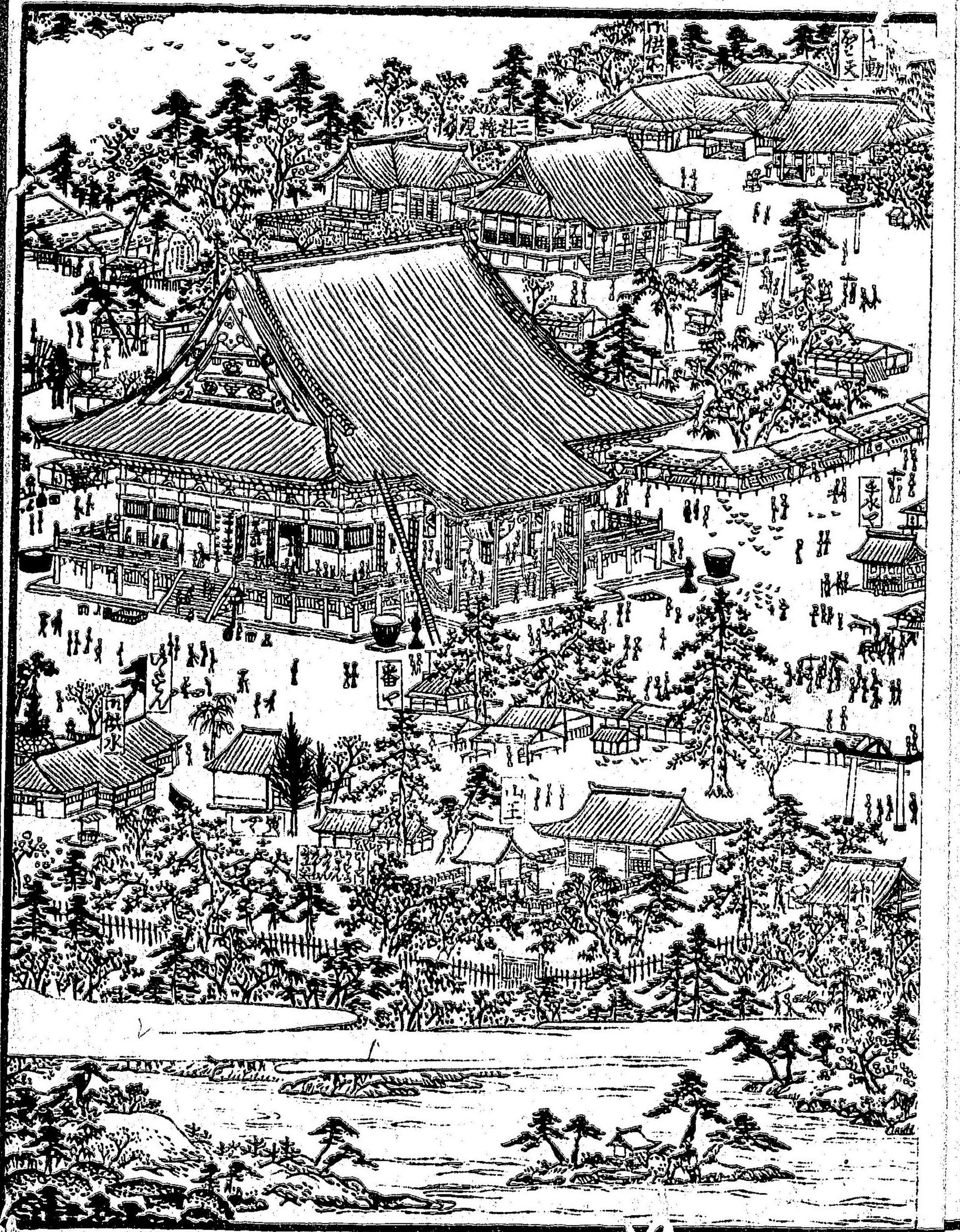
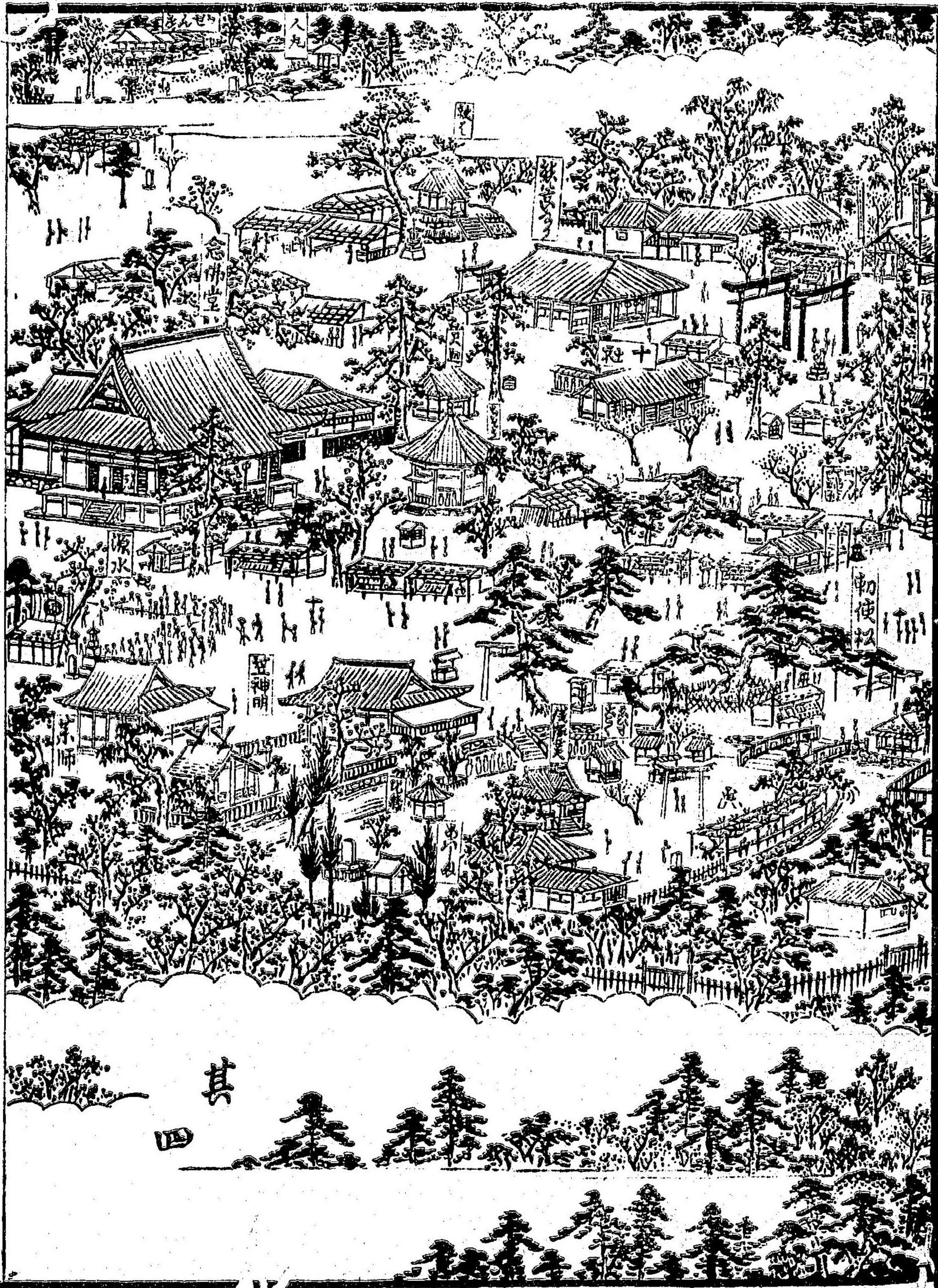
院法傳

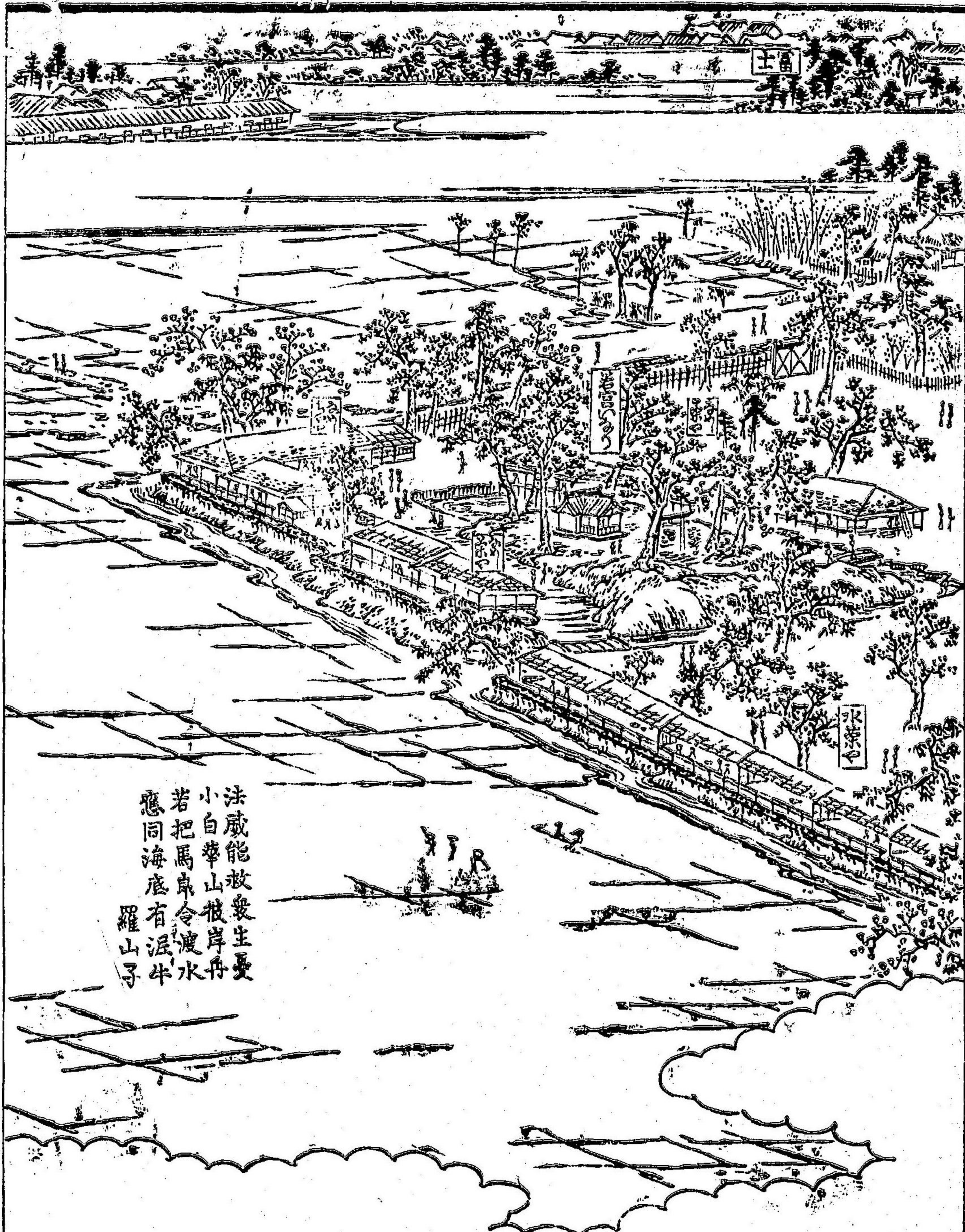
院法傳

院法傳

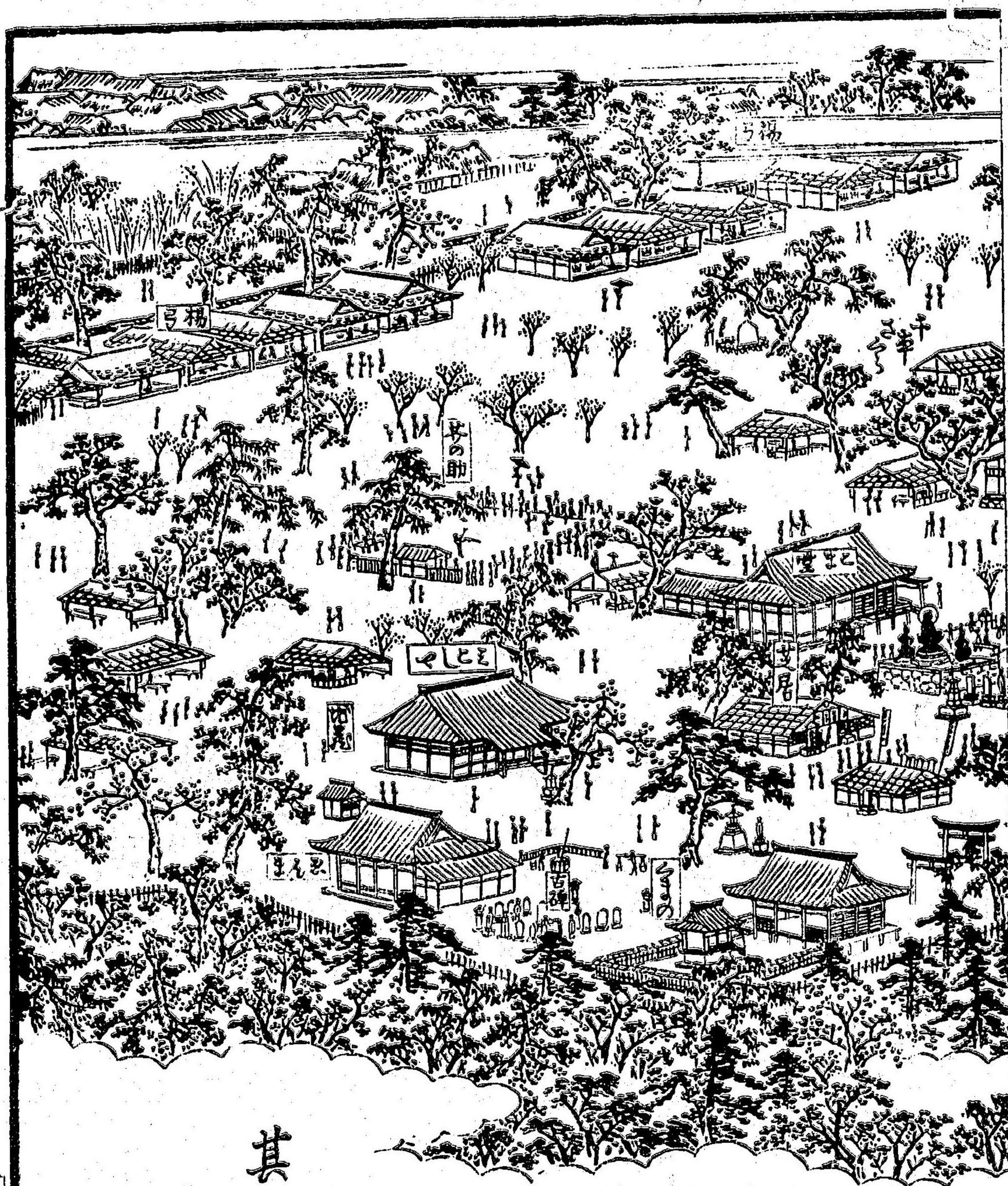
院法傳

院法傳



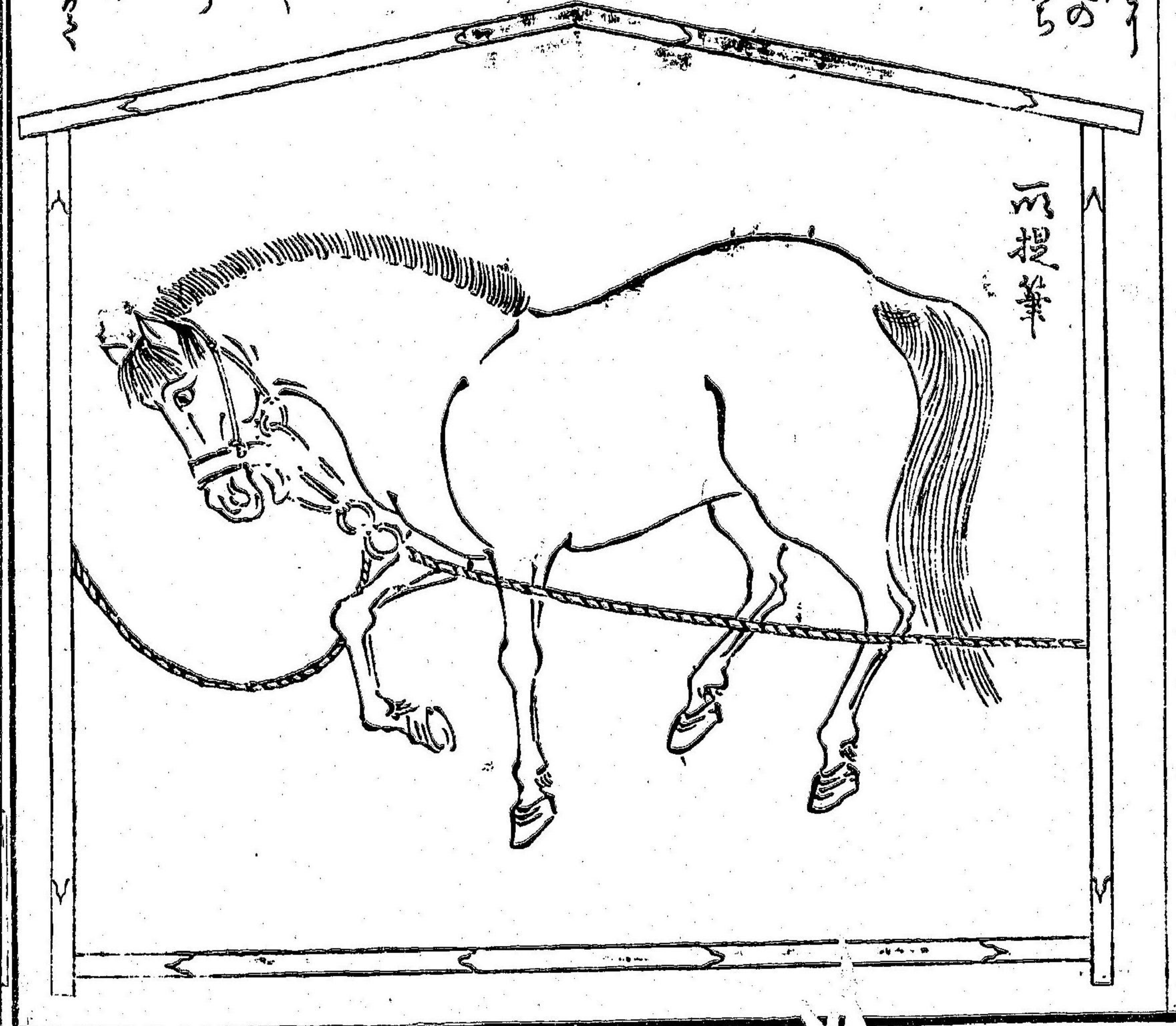


法威能救象生憂
 小白華山披岸舟
 若把馬泉令渡水
 應同海底有泥牛
 羅山子



其
 五

小神初めりその儀柄描と取
 一層の古き様なるなり前足の
 としその板破裂とすすから
 糸ともりく繫補
 前神言とありふると
 一層の夜も夜樹下
 宿と中夜まの馬馬の人
 来つて前を歩く相も小衆
 一層の夜も夜樹下
 宿と中夜まの馬馬の人
 来つて前を歩く相も小衆
 一層の夜も夜樹下
 宿と中夜まの馬馬の人
 来つて前を歩く相も小衆



長嘴子
 長嘴子
 長嘴子

いらまれば持出のり飼の赤草の
 長嘴子
 長嘴子
 長嘴子

紅葉繪馬
 寛永十九年二月十九日炎焼之時武列江戸之住本村市兵衛出
 紅葉繪馬
 寛永十九年二月十九日炎焼之時武列江戸之住本村市兵衛出

静長刀
 山門
 後人の作り毎春秋二度の彼岸の中目も
 静長刀
 山門
 後人の作り毎春秋二度の彼岸の中目も

養心寺

曼珠院三品良尚法親王眞蹟

五層塔
 轉輪藏
 隨身門
 鐘樓
 五層塔
 轉輪藏
 隨身門
 鐘樓

六月十五日
糸禮之圖





萬分會



鎌田政清造
六地藏石燈籠

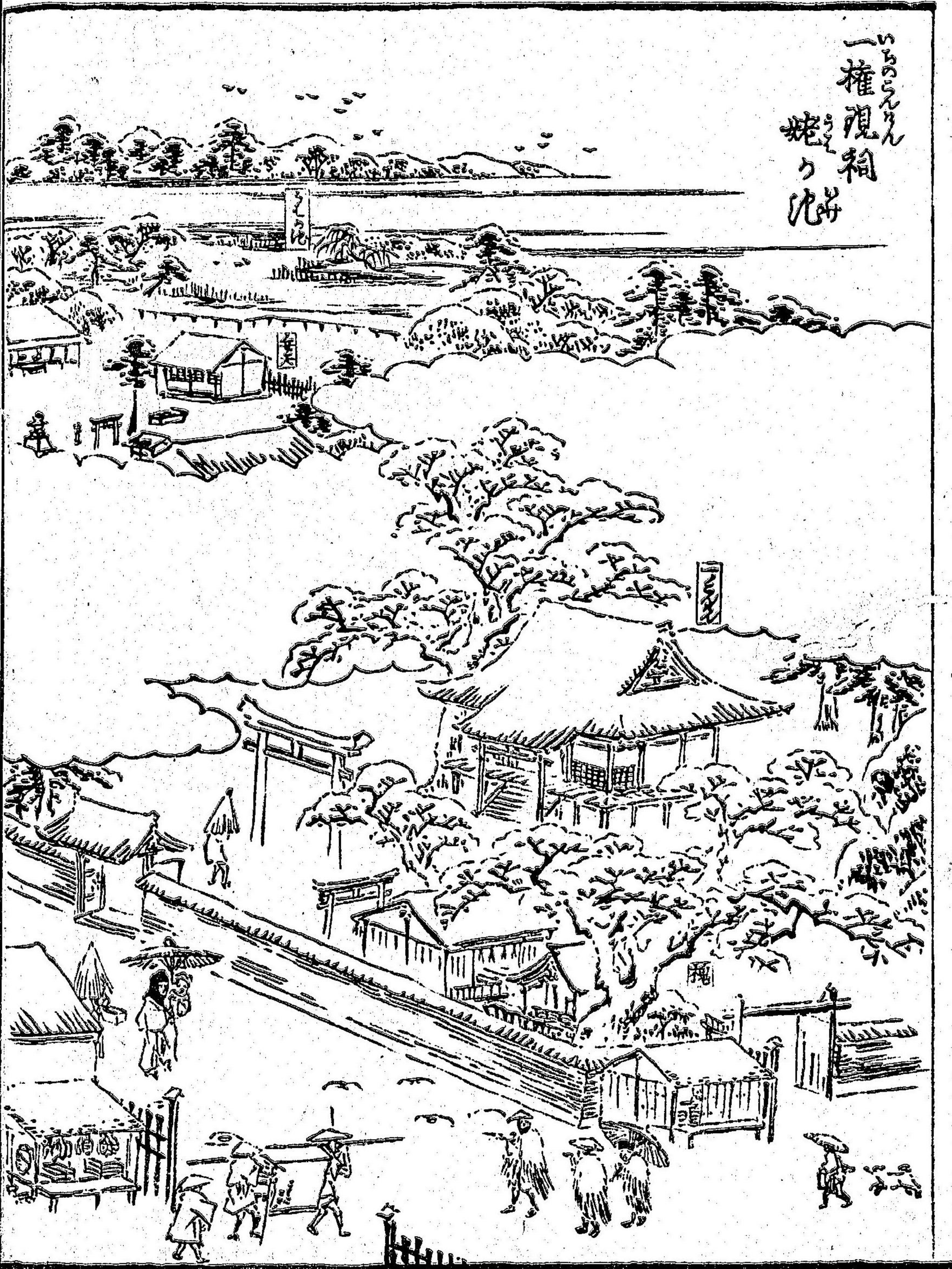


鯨鐘
是と鐘
日所あり
二六時

大 東 大
鐘 院 家 光 公 請 當 山 觀 音 堂 見 伽 藍 破 壞 卽 命 改
作 之 凡 二 十 餘 所 又 於 堂 後 林 中 創 建 煥 燼 公 復
命 照 官 後 僅 數 營 造 如 初 自 爾 呂 選 日 往 年 來 超 四 十
風 兩 所 侵 寢 至 敗 毀 今 爾 呂 選 日 往 年 來 超 四 十
樹 幕 下 美 十 先 公 衛 門 尉 建 部 昌 孝 五 郎 充 衛 門 尉
田 忠 昌 使 八 郎 右 衛 門 尉 領 東 清 薰 匠 事 鳴 呼 結 尉
三 浦 義 成 飾 之 美 仰 而 可 整 俯 而 可 欽 功 德 之 大 宣
可 構 之 崇 彩 飾 之 美 仰 而 可 整 俯 而 可 欽 功 德 之 大 宣
牧 野 量 我 其 樓 上 所 振 之 鐘 亦 破 裂 因 改 鑄 之 備 後 守
鐘 既 成 貞 喜 捨 黃 金 二 百 兩 爲 常 報 十 二 時 之 資 糧
鐘 本 無 音 鐘 治 功 已 成 鐘 日 爲 常 報 十 二 時 之 資 糧
象 生 一 切 種 種 有 能 鳴 觸 物 之 擊 之 一 切 毀 雷 轟
鯨 念 忽 發 迷 夢 顛 驚 諸 况 斯 薩 掩 唯 一 德 峰 嶽 生
誠 念 彼 力 茶 稱 其 名 驚 諸 况 斯 薩 掩 唯 一 德 峰 嶽 生
元 祿 五 年 次 壬 申 八 月 日 諸 况 斯 薩 掩 唯 一 德 峰 嶽 生

武 別 豐 島 郡 金 龍 淺 草 寺 權 僧 正 宣 存 拜 撰

一権現祠
姥ヶ池



こと見むと思ひある時道ひ入りありと昔て男の如く出でて彼石小
 外りのもの如くを得て頭を打つたたり急ぎ物も取むとく
 引ひつゝなるまどあけて見せり人獨りある一くさりとよとく
 それ我娘さうむもられまこといとはなす一もむさうやれ一夫
 より彼父母さきさるん發んて度くの悪業をも慈徳懺悔して今今の
 娘の菩提をも深くとまひまひとて語けりよ一古老のふかれ

一権現祠の石燈籠の如く思ふに
 一権現祠の石燈籠の如く思ふに

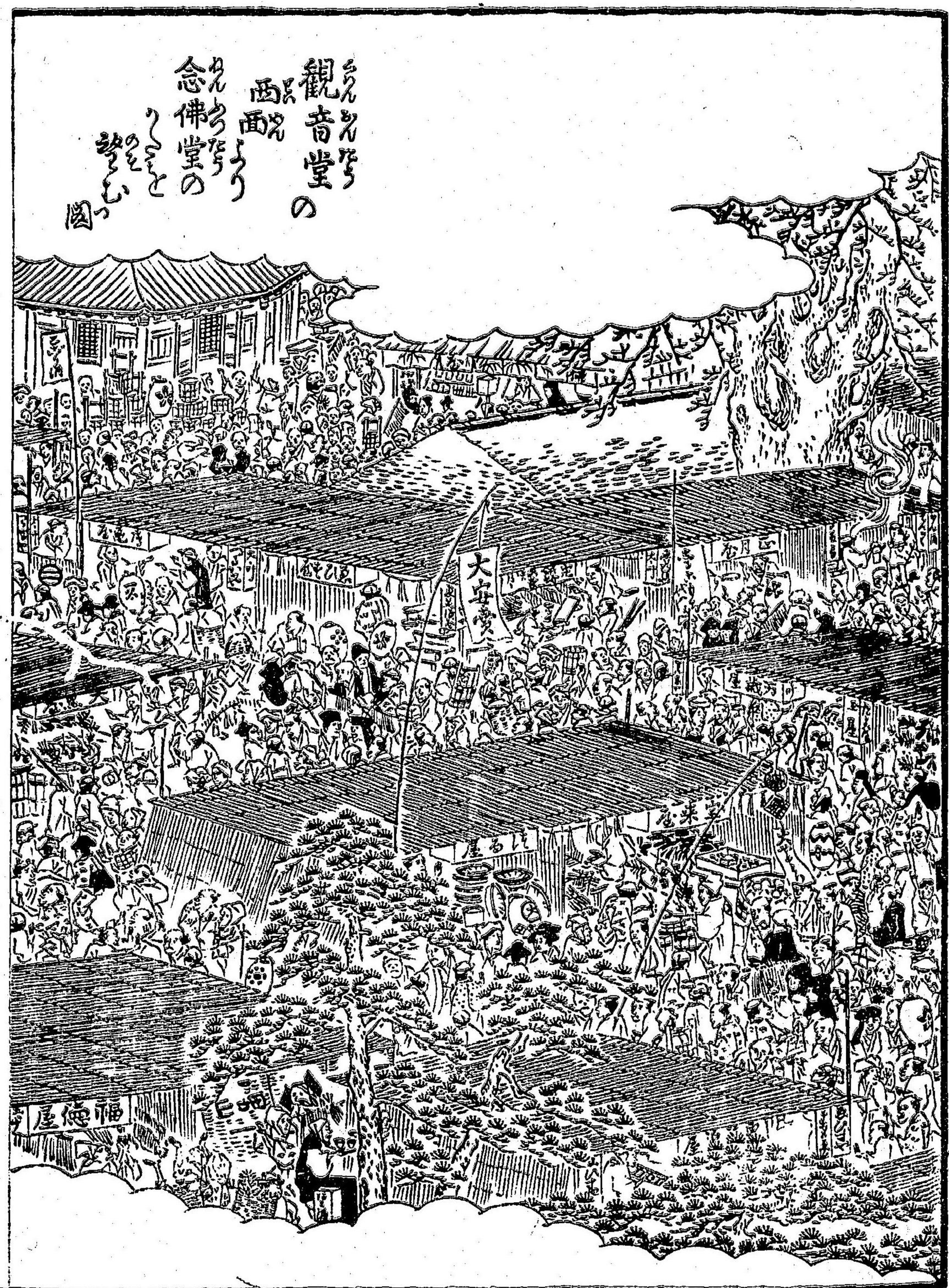
當所の寺号は草草寺といふ十一面観音小とすもましくひぬま
 霊佛もとましくひぬま

一権現祠 回野頭松院の境内あり古俗あり堂と云はれ古昔草草寺の觀世音の
 草刈の草葉をとりて柱とすとの草堂と建て披露儀と云はれ一奉り一御
 ちり放りあり堂と唱へて後世傳へて草草寺と
 あり傍心觀する影向の槐あり
 六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸所には南ありぬる人此野の河岸とす
 河岸とすの池は昔より奥羽海道の馬次ありとて其頭かきんあんの

十二月十八日
年の市



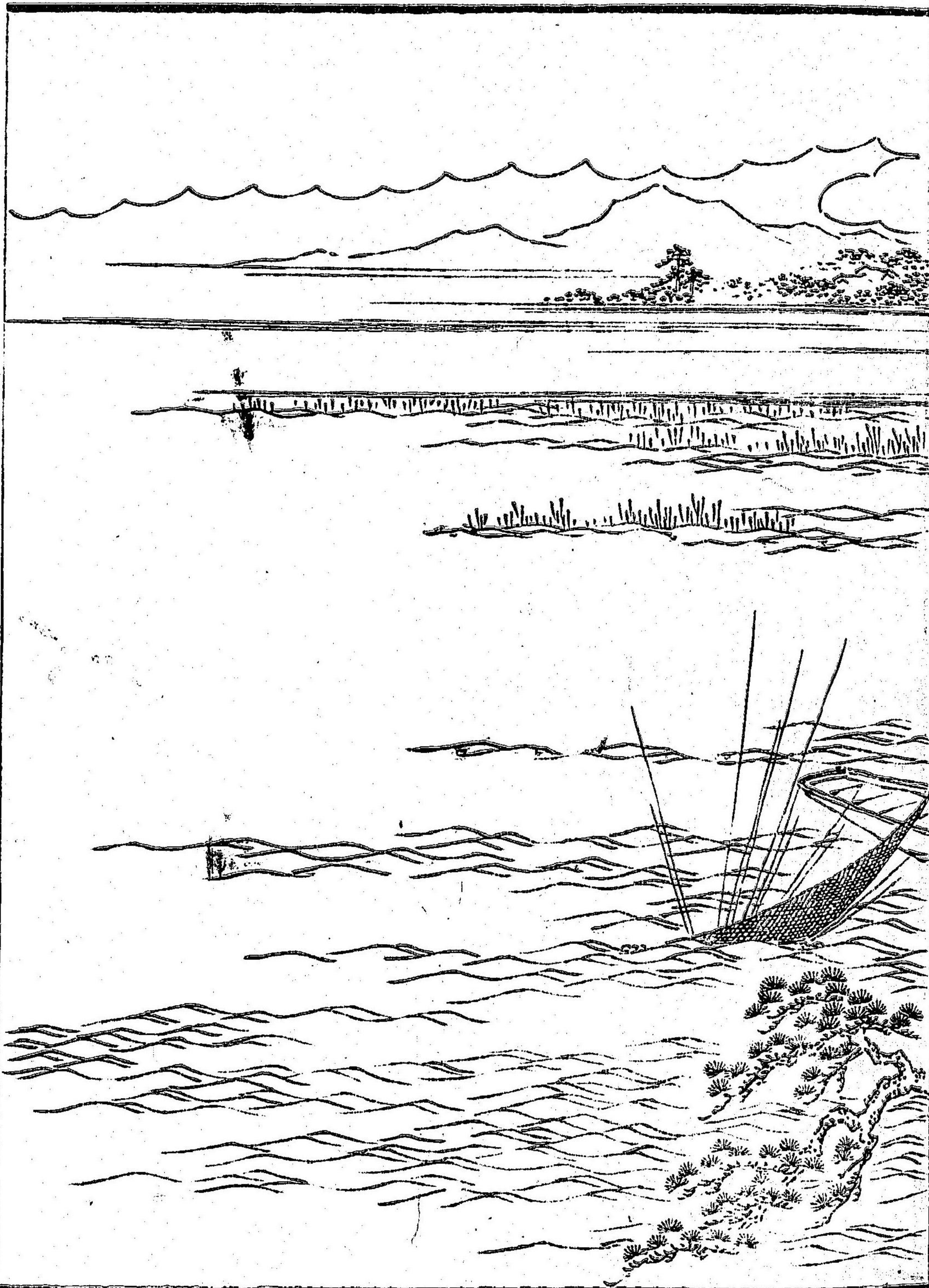
観音堂の
西面
念佛堂の
勢い
園





馬市
新内と
十一月
南都
新内と
十一月
南都







往すお師匠中おどろき
梅前廣成武成華の
主従後草川一組と
親昔大士の重徳と
感得り以此地の
草川集と後林と
りて夜の御堂と化
を南に後林と
女道一とありと
りて其田は今の
東谷一の権現の地
るの草川は後林よ
りて十社権現と
す



西暦の戦い... 此國の字... 當寺の諸當國の大小... 新求す... 此國の字... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

樓門... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

三年己未十二月... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

のりく新願... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

又仁安三年... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

く田園... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

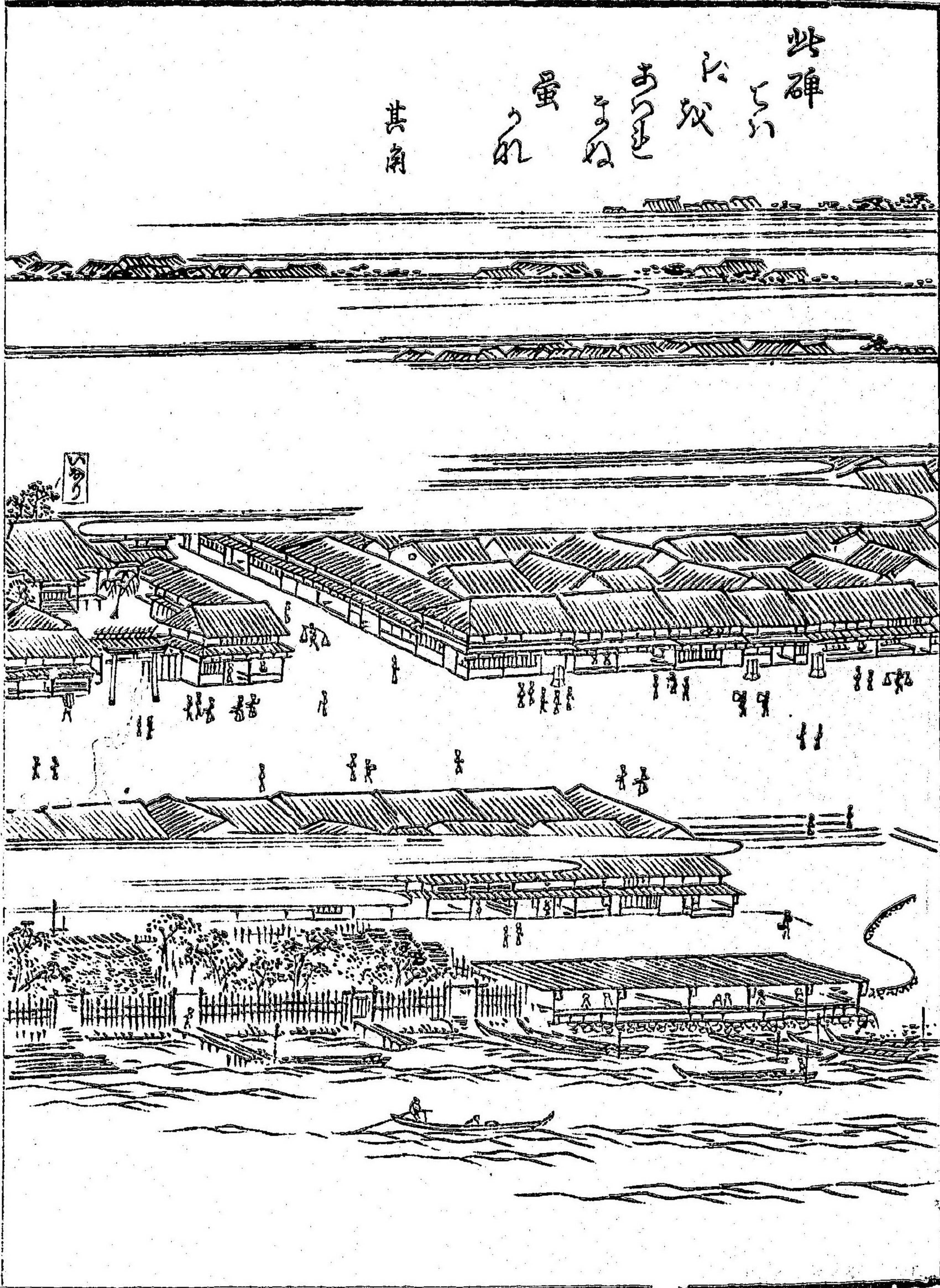
方勸進... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

三年壬辰... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

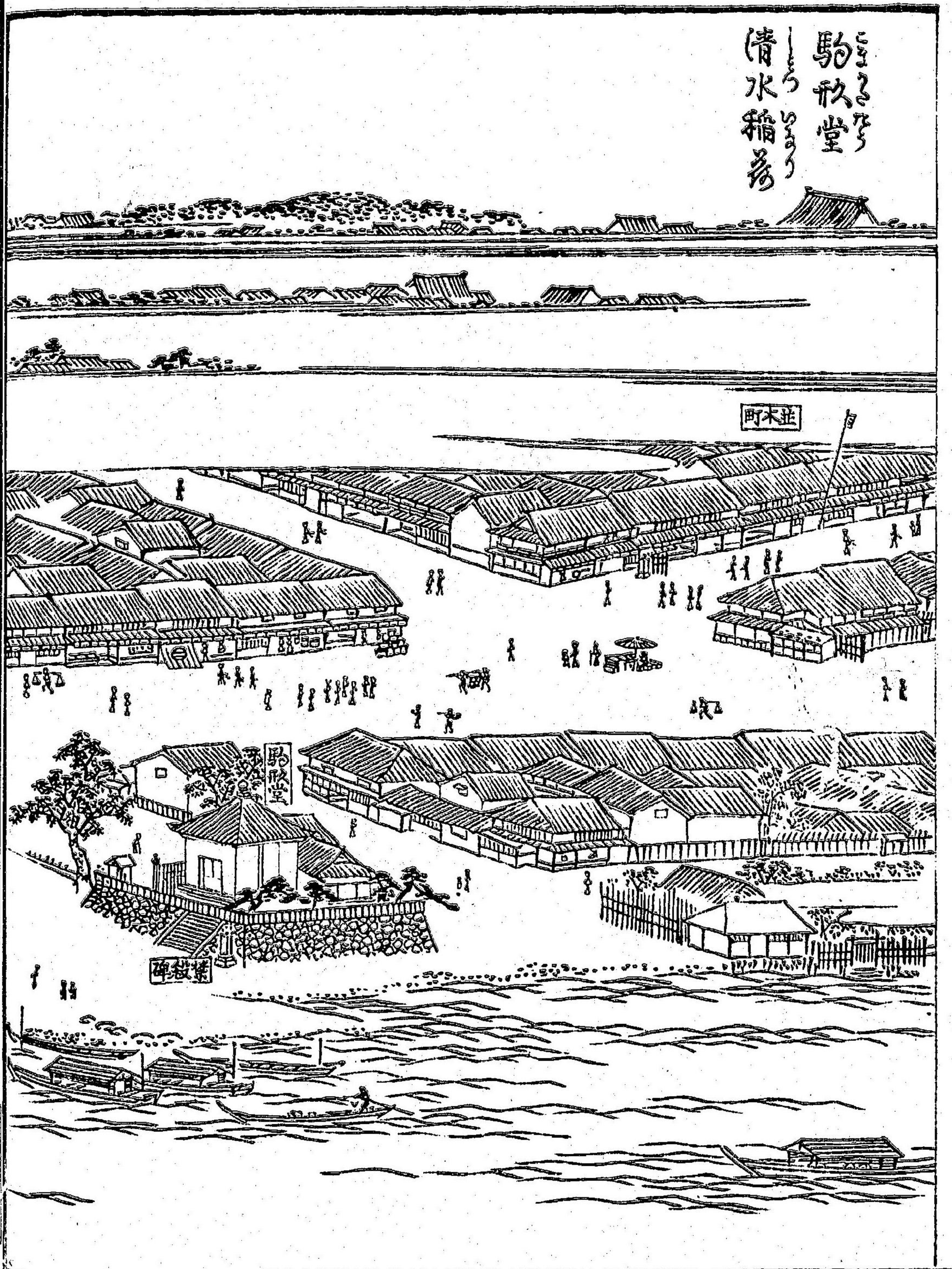
利め... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

奥あり... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉... 靈験の空... 奉...

此碑
石
成
の
里
の
東
の
南



駒秋堂
清水稻荷



其頃元右並あまうと極花松様を裁す春時殊更あまう深る一と尊皇二十年の
印奉敷めりとのり書小物取堂の近近並本の極花松様燦たるよとまきり
馬頭観音あり淺草寺縁起小天慶五年安房守平公雅は浅草寺観音
堂造営の時此堂宇も建まり一と記す
新願あり者書すのりつとるの
形作てあまうと堂内宇納す
物取堂と聞へたむ
まのりつとる

此堂の傍小淺草寺領内殺生禁断の碑あり

禁殺之碑 武藏之川 遠出乎源 近注干海 大悲薩埵
現像垂 跡洋如 昨昭而著 其為靈境 亦己尚矣
然固可厭 惡伏惟 靈刹數回 祿蓋以大 悲為仁慧
听不安也 幸遇禮崇 三寶南 興寺宇於 是夫歲闋 寺
四海深重 物命禮 崇三寶南 興寺宇於 是夫歲闋 寺
堂舍終治 補草猶 如新成 因立制 令嚴戒 殺生乃 以
南自誠訪 町北至 聖天岸 十町余 計為界 嗚呼盛哉
好生之大 德種福 之勝業 一在干 斯區區 愚良
天恩意足 仰而望 菩薩之 觀心可 從而知 區區愚 良

感斯有心 餘乃為銘 曰
維斯異類 好惡同然 以我則乖 以觀則圓
鱗介異類 好惡同然 以我則乖 以觀則圓
管生嗜味 建禍取怨 良哉於後 思或於此
文但物命 慈悲得全 網罟作禁 魚鼈無虞
豈但物命 慈悲得全 網罟作禁 魚鼈無虞
元祿六年 次昭陽 作夏三月 及擊習能 懷

三島明神社

物取町の西二丁より小あり祭神大山祇命一坐

土人傳云往古に野行其本國豫列の比より此武藏國一赴くの海上

風波の難小逢仍奉國一宮の御神小祈を奉り一小恙あり昔岸

神恩を報奉らむる茅宅の比小勸請あり一由昔ハ下管坂本小あり

清水稻荷社

物取町小あり往古嘉美年中弘法大師東國遊化のとき

此國一入ぬ一頂雲吉小よつて如意宝珠と神跡と一橋為小勸請一た

其地より清泉涌出故小清水の名あり一後管中感應寺の比とあり法華の勸請と

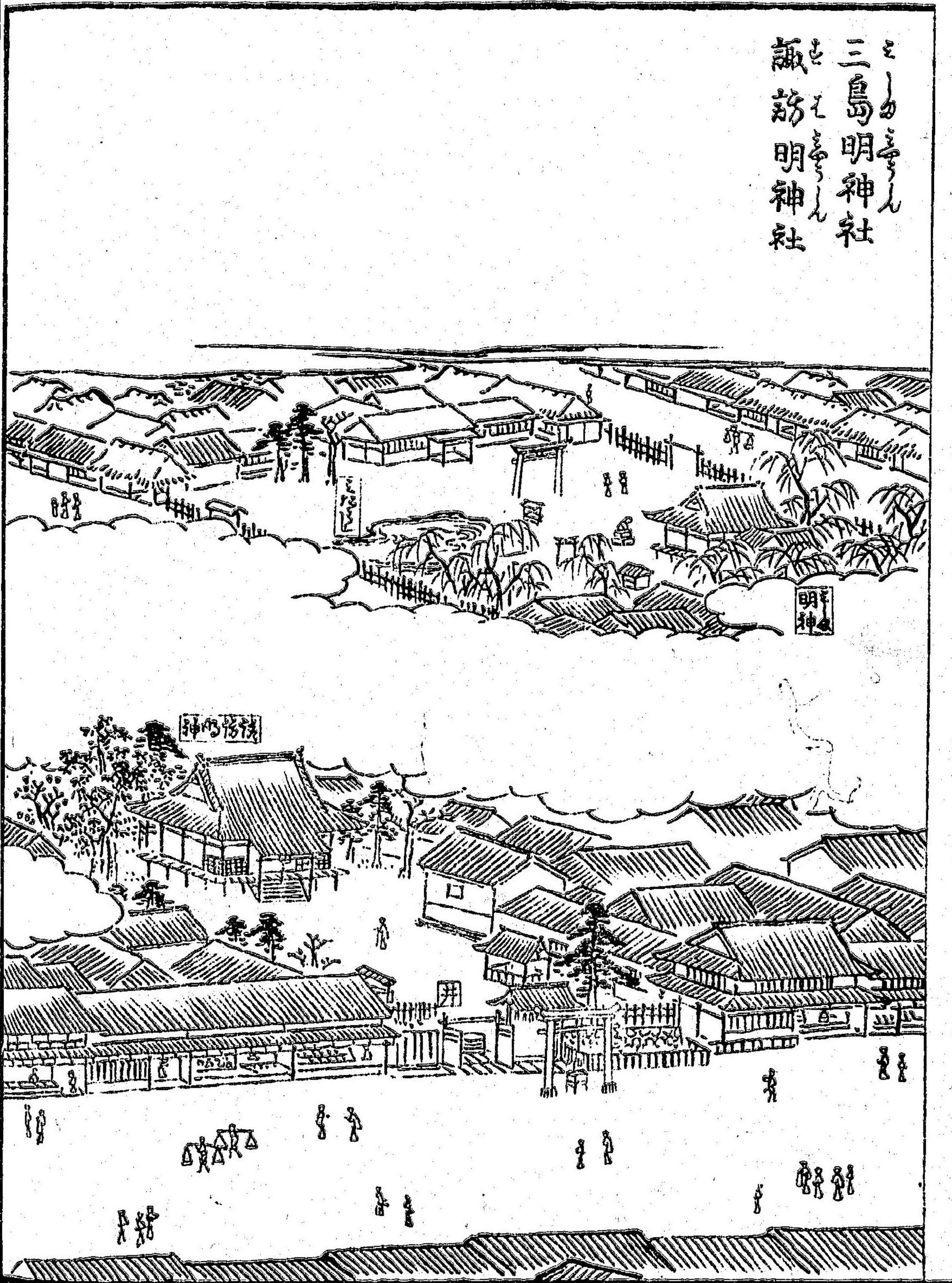
あつて表松院構のちとある今清水のちとあり別當は数行役といふ旧比の東蔵山の西のりつとる
昔の地小ありこれより後小元祿二年異教のちとある草紙小谷中稲荷清水合のりつとる

すめれいえの... 行直... 小弘法大師東國遊化の... 又江戸名所記の...
 又江戸名所記の... 水... 其... 諏訪明神社... 権寺... 勸請... 徳山...
 又江戸名所記の... 水... 其... 諏訪明神社... 権寺... 勸請... 徳山...
 又江戸名所記の... 水... 其... 諏訪明神社... 権寺... 勸請... 徳山...



又江戸名所記の... 水... 其... 諏訪明神社... 権寺... 勸請... 徳山...
 又江戸名所記の... 水... 其... 諏訪明神社... 権寺... 勸請... 徳山...

三島明神社
諏訪明神社



岡蔵堂

八幡宮より南の方武三丁と隣り松光山長延寺と号し奉る岡蔵堂

ハ運慶の作りし其丈壹丈六尺あり額小園王殿とあるハ延享年中未聘韓人の筆ぬり當寺ハ慈覺大師草創ぬり時昔ハ下野園小ぬり文永年中此地ハ遷すこと

請群集す
或は小昔の御堂なりぬり一と園の頭なる者なり
毎歳正月七月十六日夫也

兼衣使女像

運慶の作りし幸早の
化馬地藏尊
徳吉子の作昔の紀の郡智山小ぬり一と

光山觀世音

光山深く觀音菩薩と云信一ぬり此の續の普門品大悲の大地羅尼等の花巻をりて大悲の像と作り也あまひ

佛眼上人として慈眼供養す法皇より觀音の法區三十三所觀音像を頒贈ありしをりしと云長也
巴多一も像ありぬりて東藏山より小移一奉る是則及佛の権輿なり當寺境内は文永十一年の古蹟也

祇園社

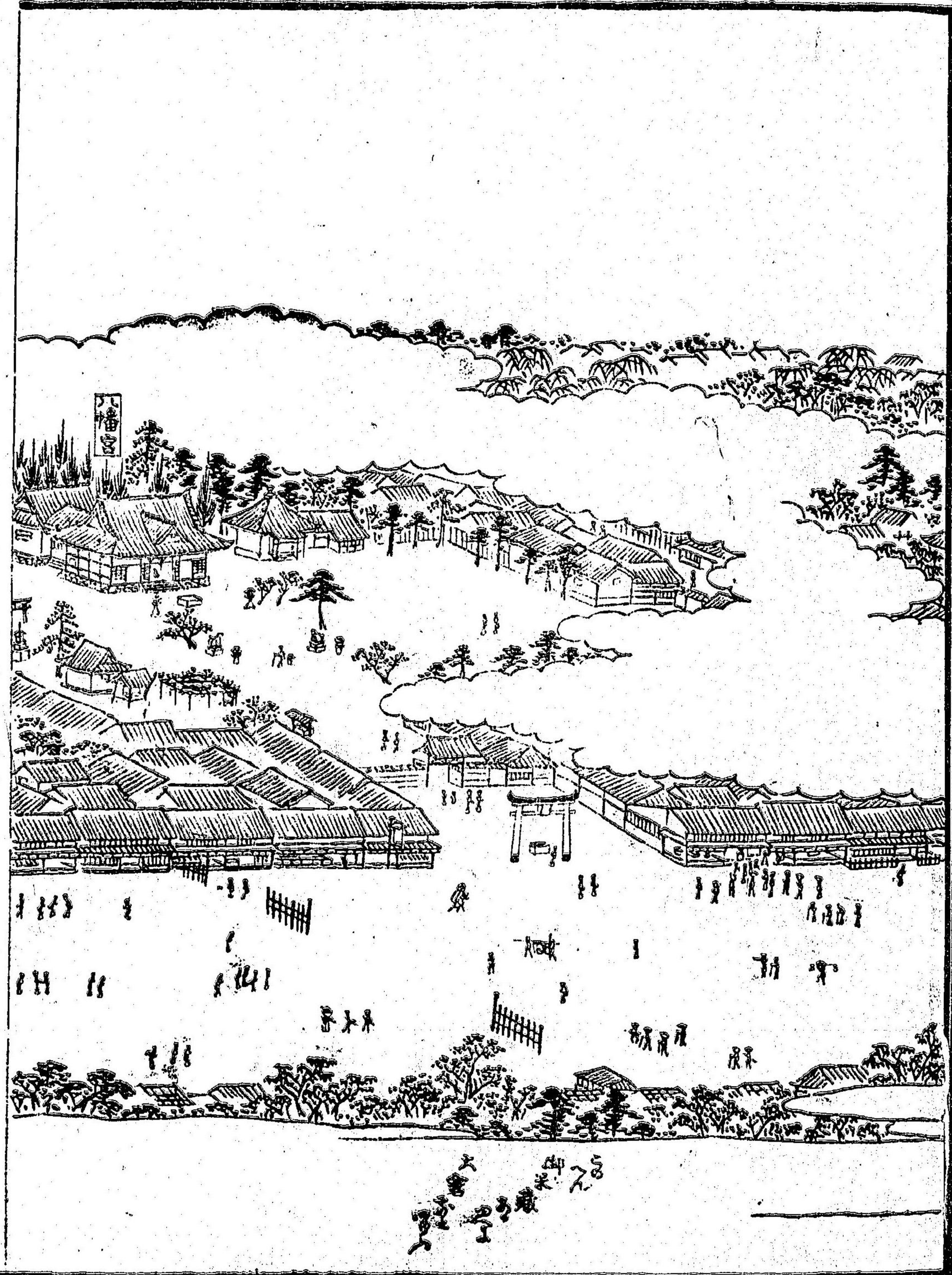
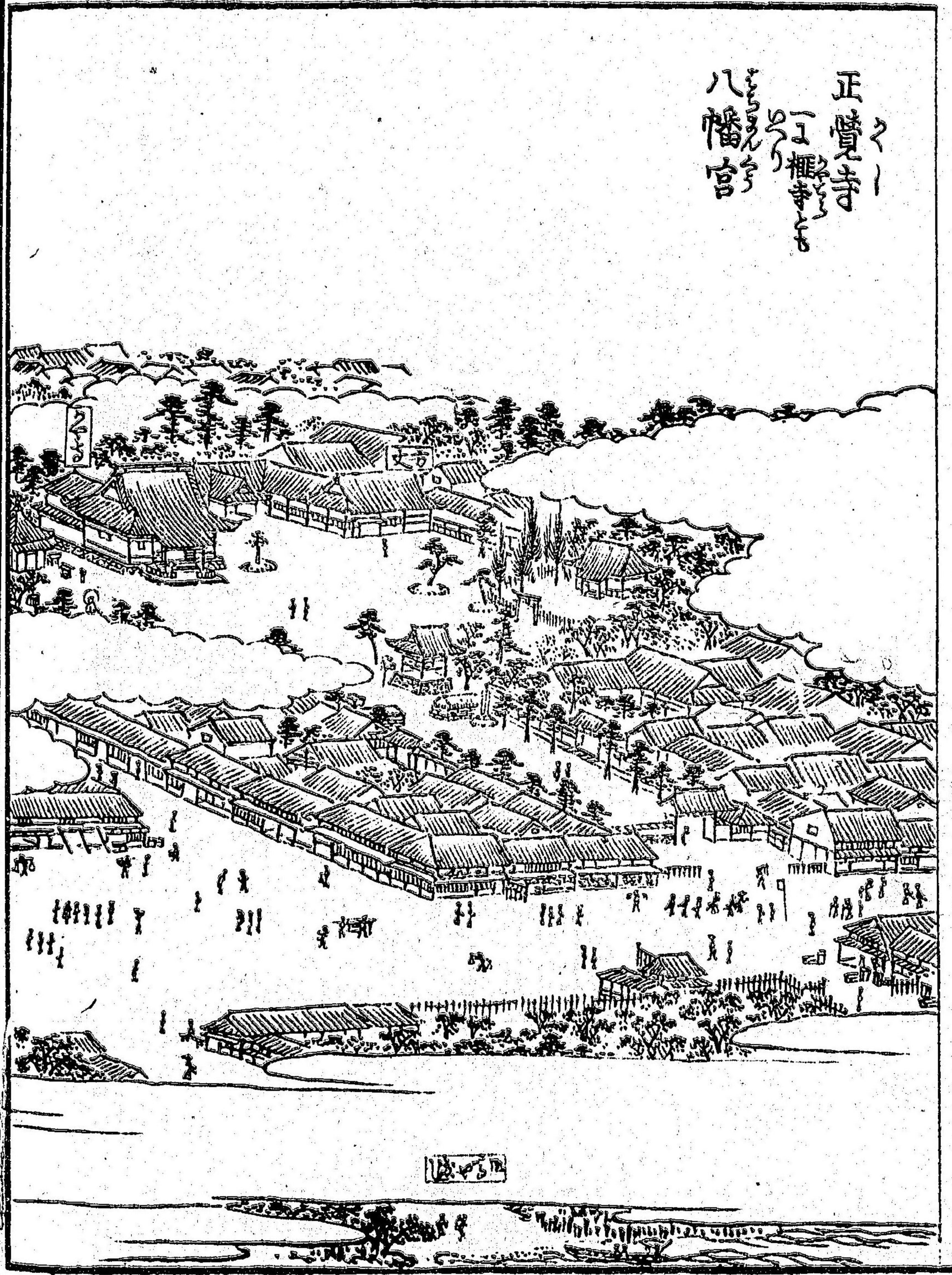
岡蔵堂の南小澤る當社牛頭天王の天曆年中の禊産ありと云

大倉前の總持守りて別當と大田寺と号し

十王堂
境内小ぬり慶長十八年又書史御建す
中より此地藏菩薩と云右小眞府十五

銀杏八幡宮 岡蔵福井町ぬり傳へ云當社の永美六年源頼義朝臣岡蔵

正覺寺
八幡宮



御厩河岸渡



義家朝臣貞房下向の時と小室のたすか小川より銀杏木の流し来る

ゆりの則義家公手はくさくさ地は一統言て曰朝敵退治勝利ゆり此樹は

枝葉と繁みへとまり遂に其軍勝利ありと凱陣の時ゆりゆりゆりゆり

枝葉繁みゆり八幡宮と勧請ゆりゆりゆり其昔ハ八幡塚と唱ゆりゆり神木

の銀杏樹の延享二年の秋暴風よ吹折て今ゆりゆり其枯株をなせり

第六天神社 後草橋のゆりゆり昔ハ大倉前本林田ゆりゆり

災の後今の地に移る祭神の面足尊神根尊なり

後藤指宿は 當地のゆりゆり 昔新田家臣後藤伊賀守當社はゆり

ゆり一晩入道ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

越里 越明神のゆりゆり大倉家のゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

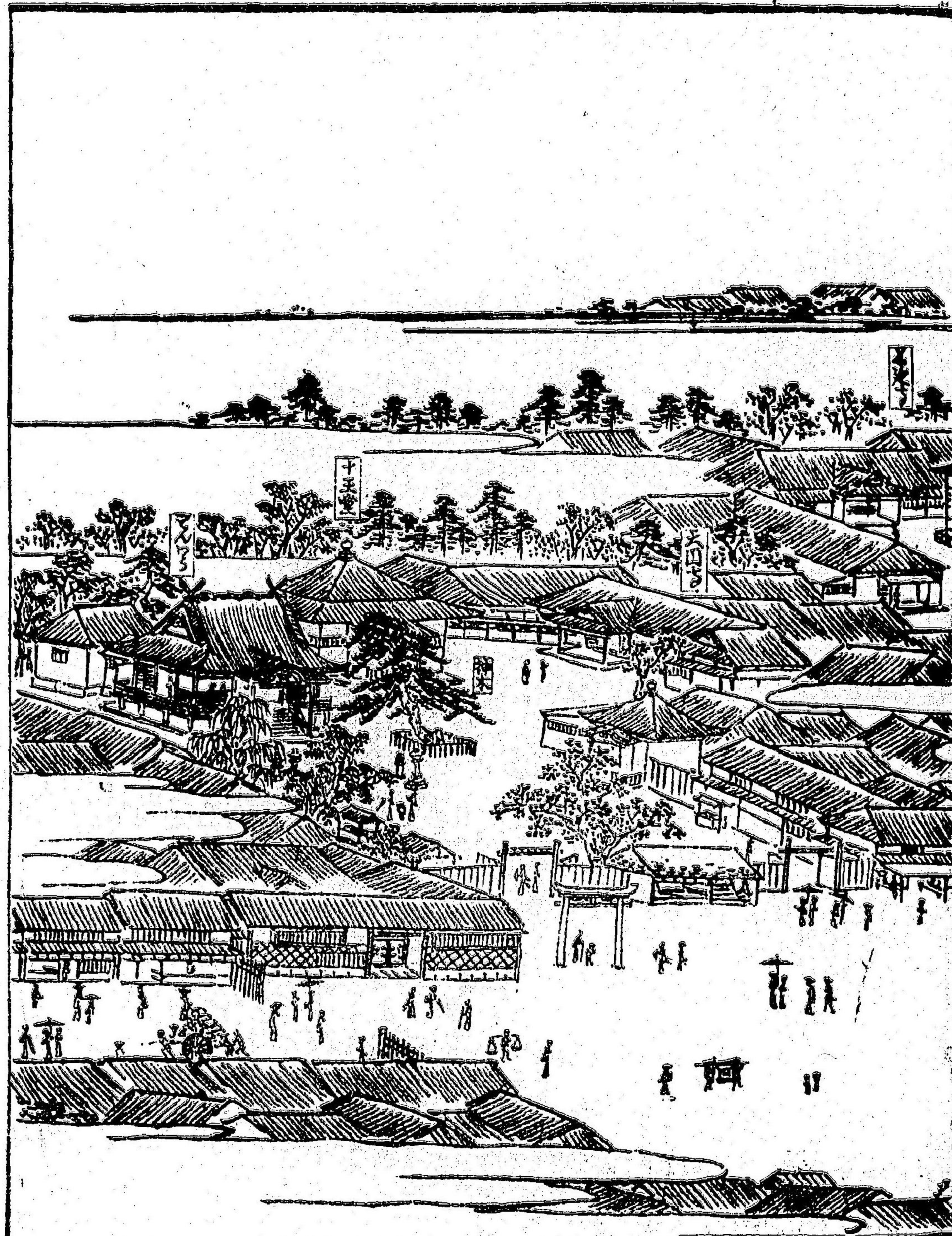
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

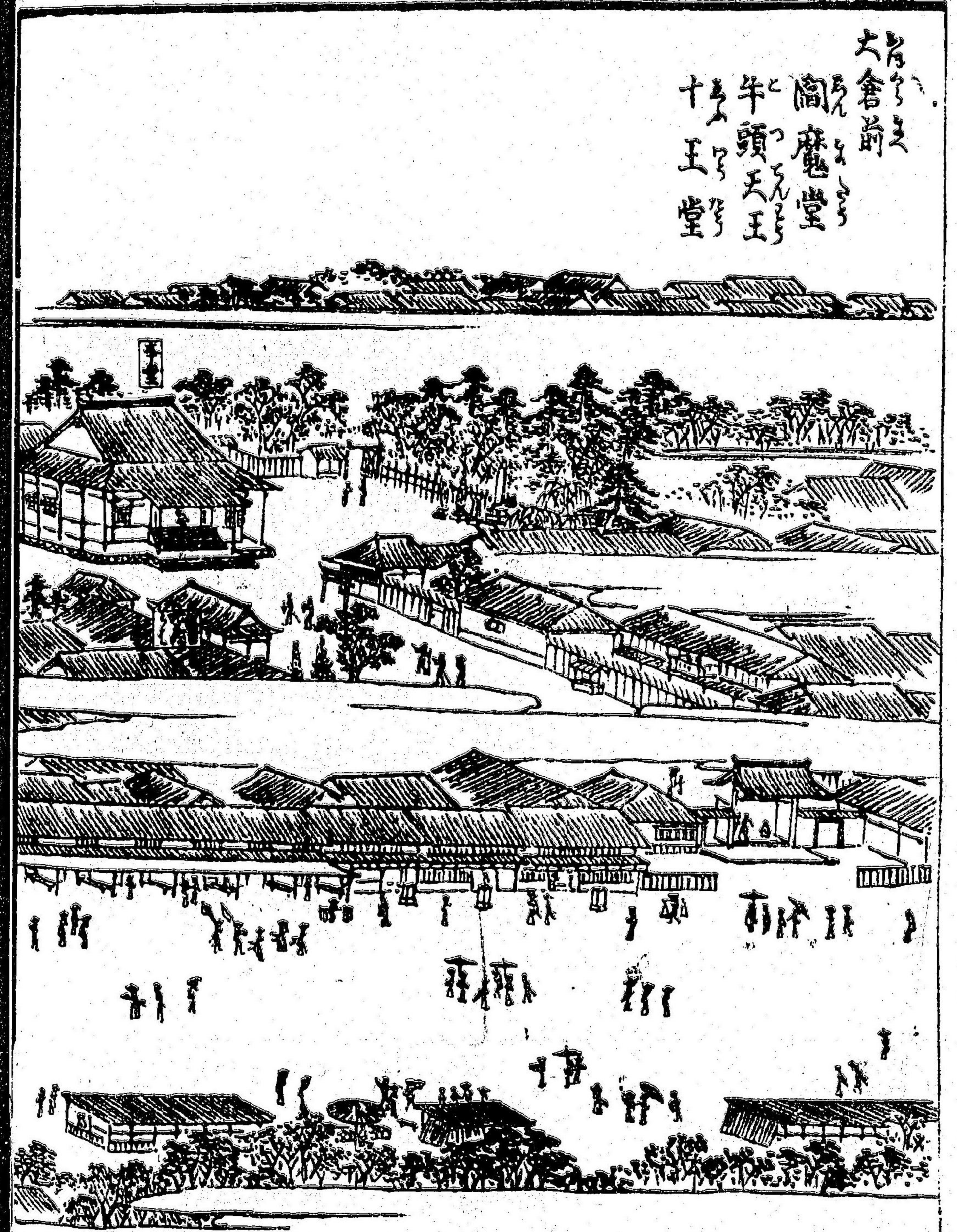
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

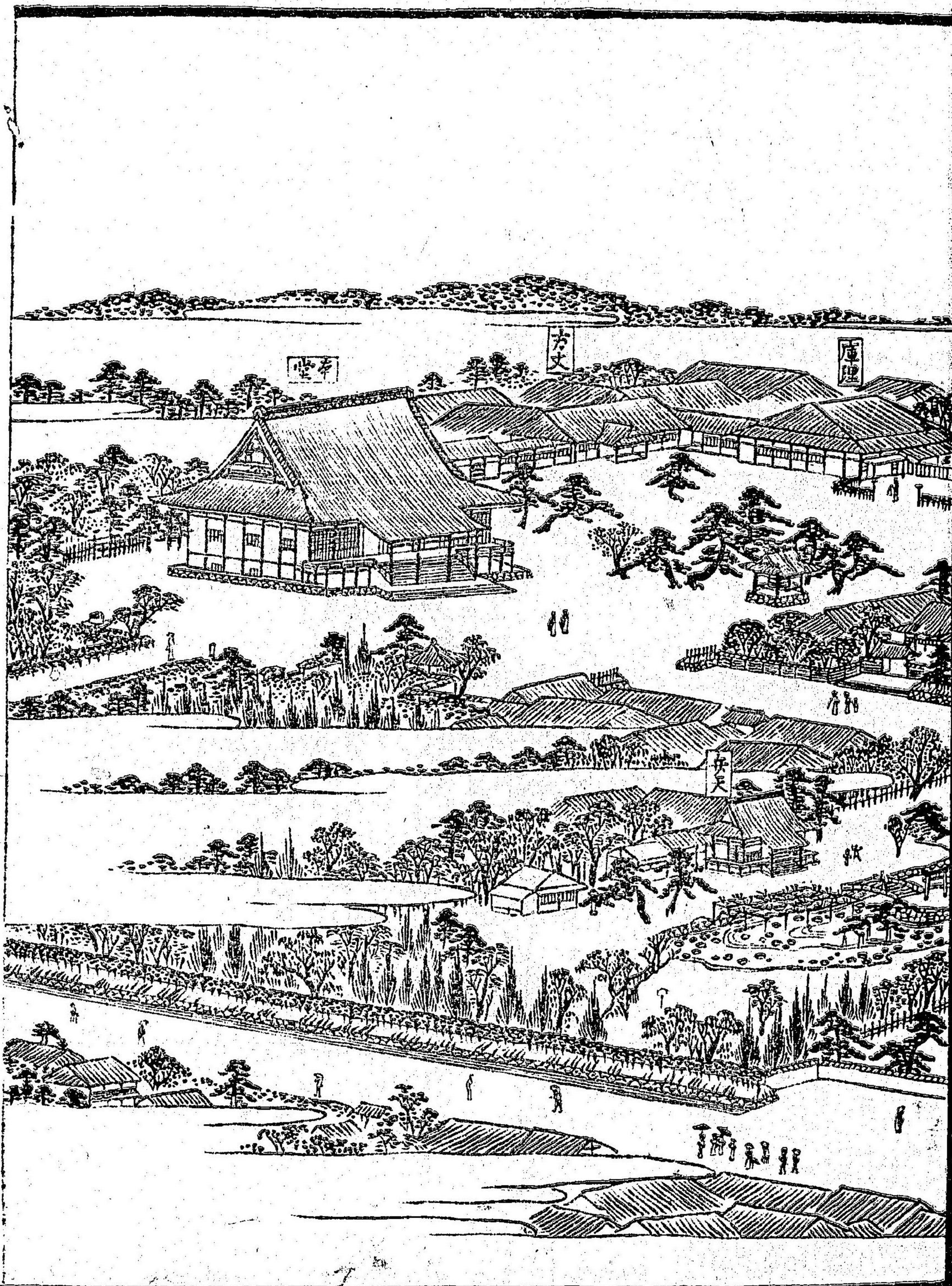
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

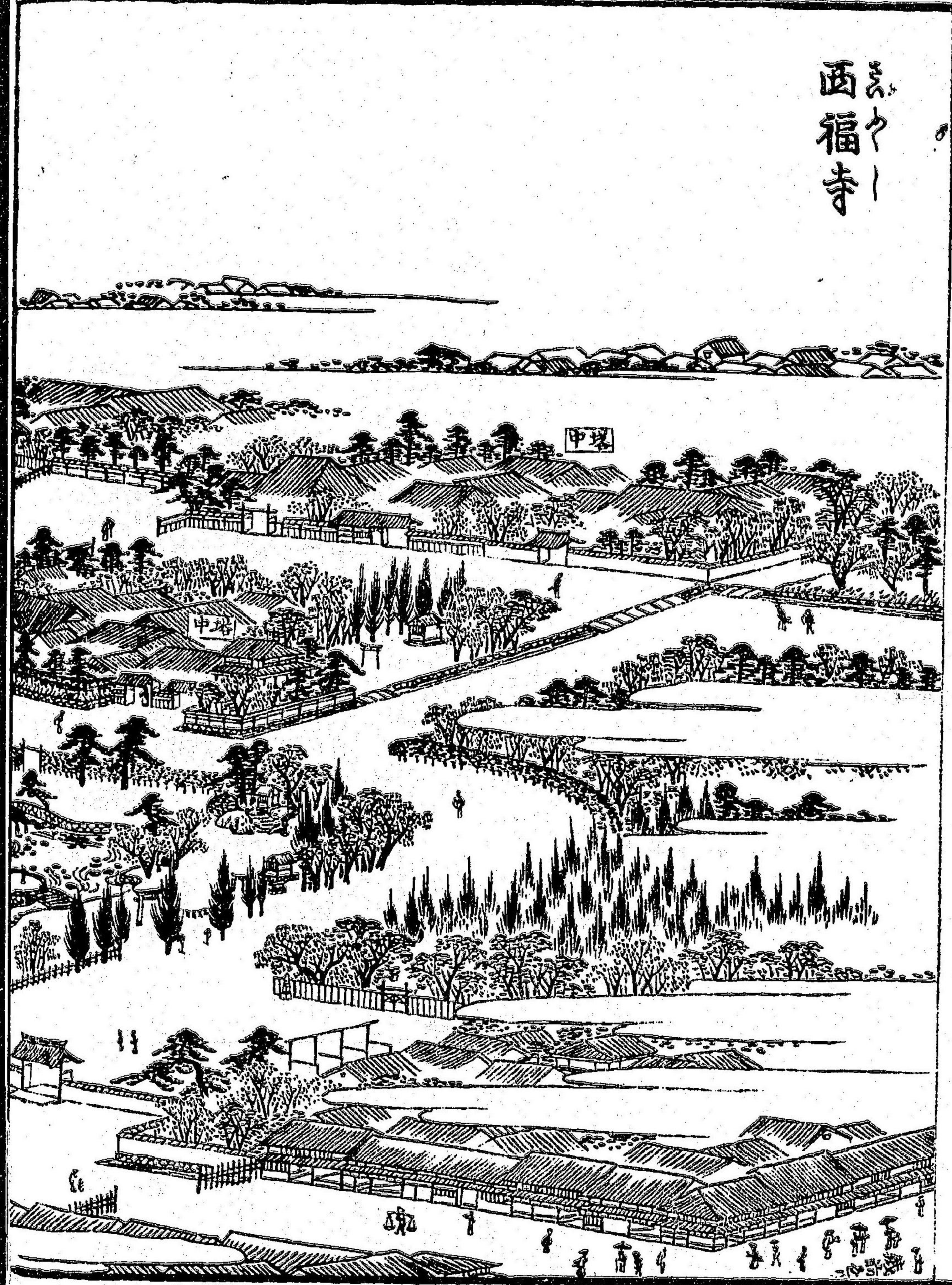


大倉前
牛頭天王堂
十王堂

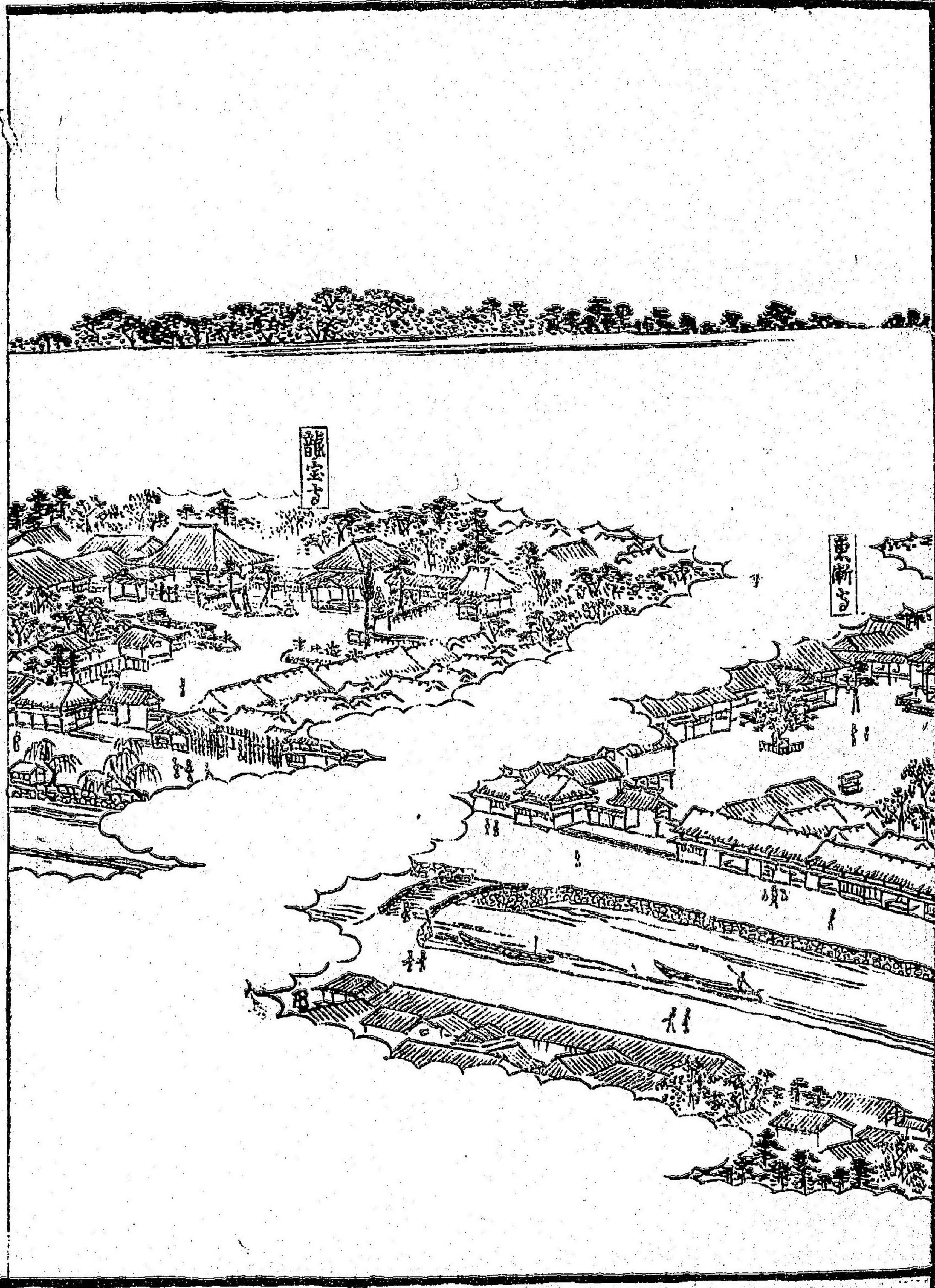
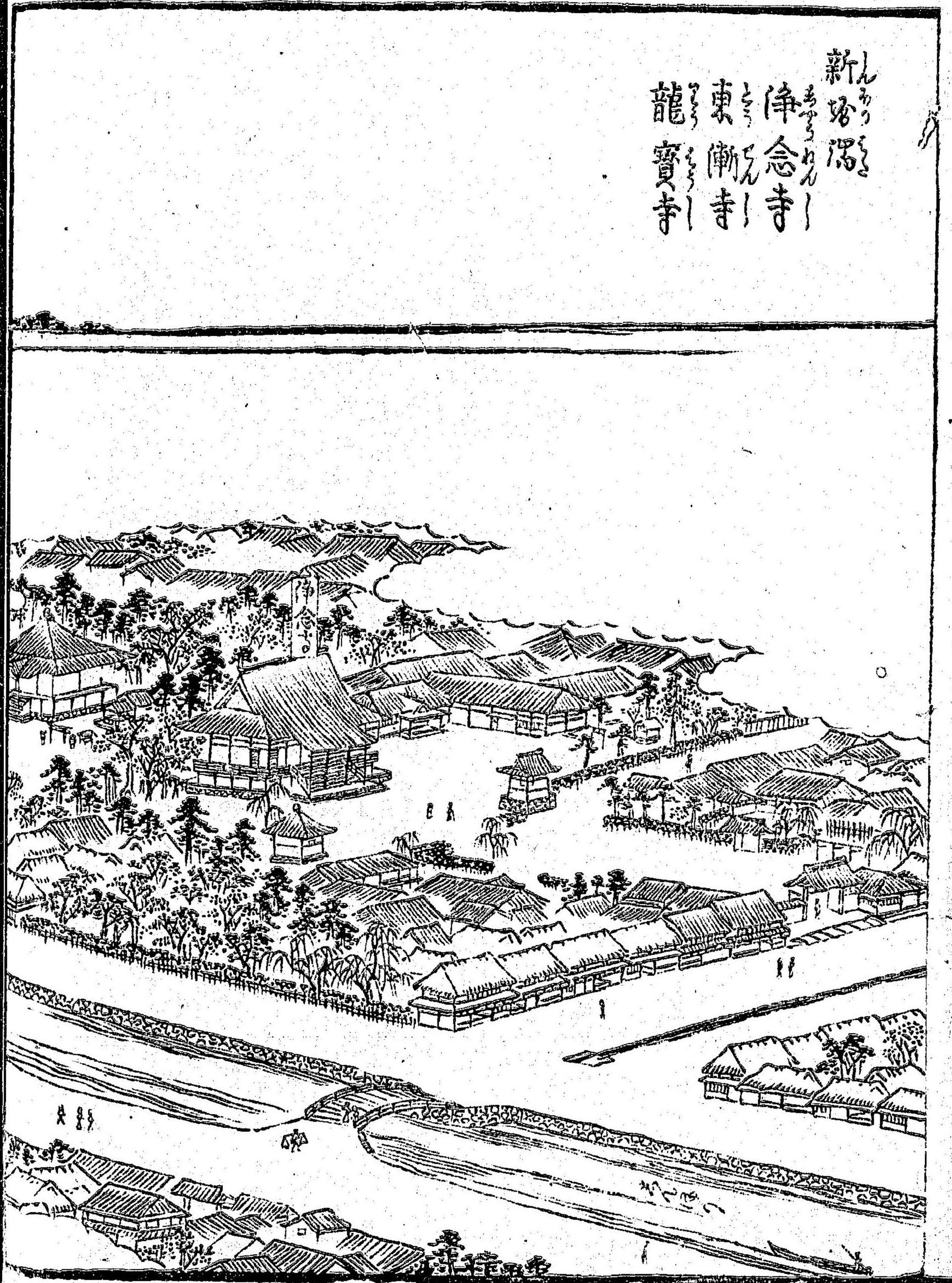


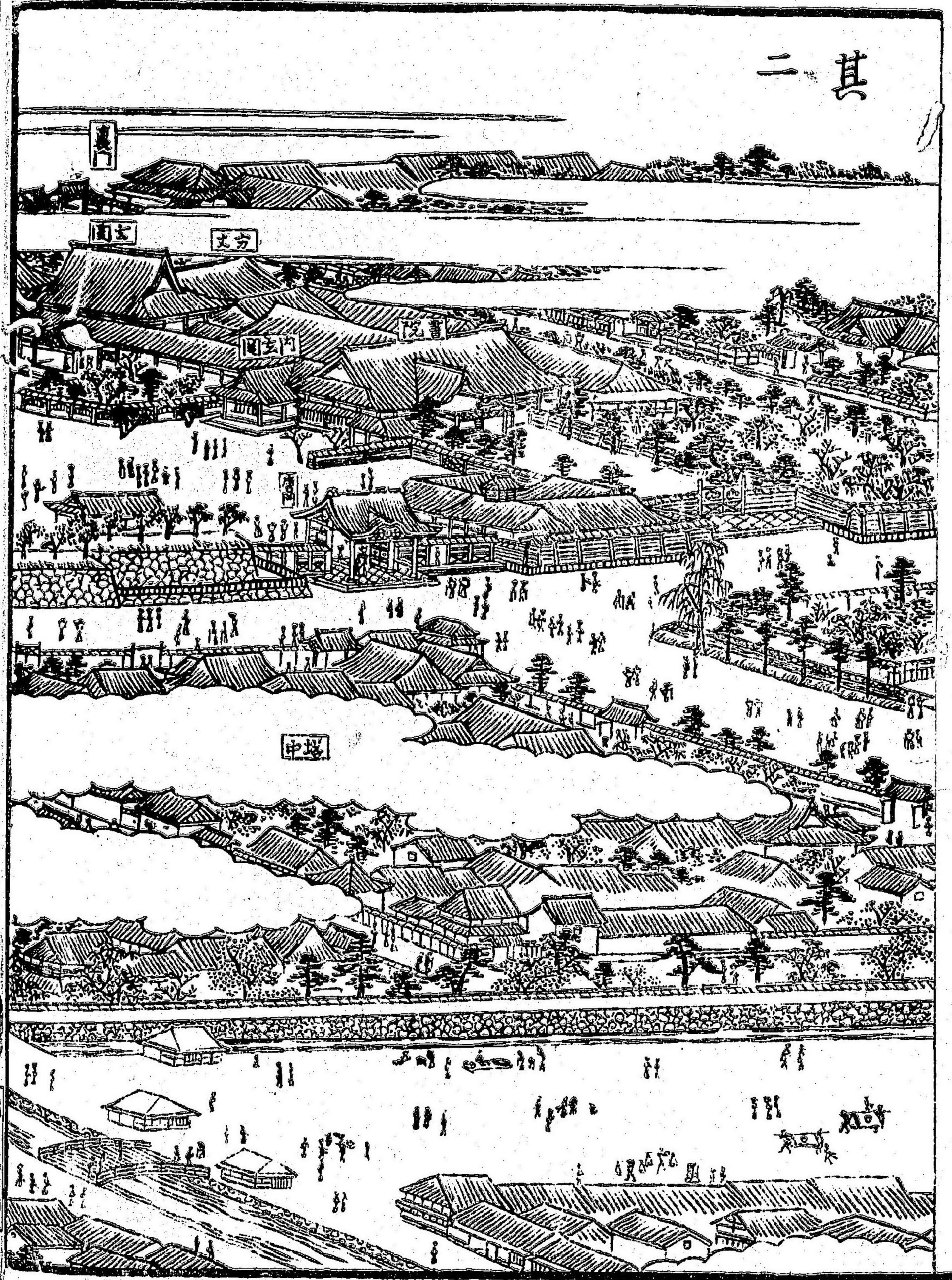
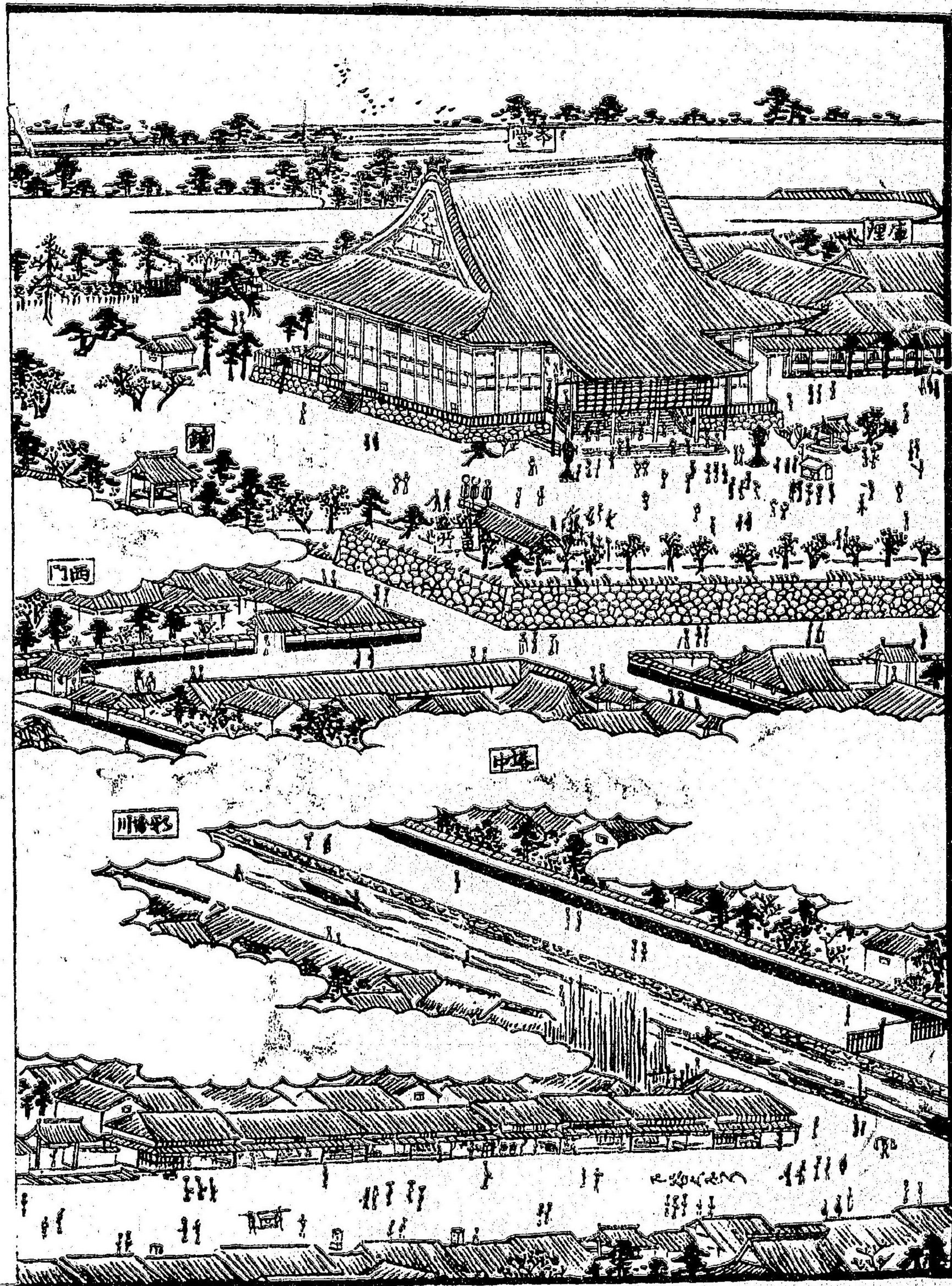


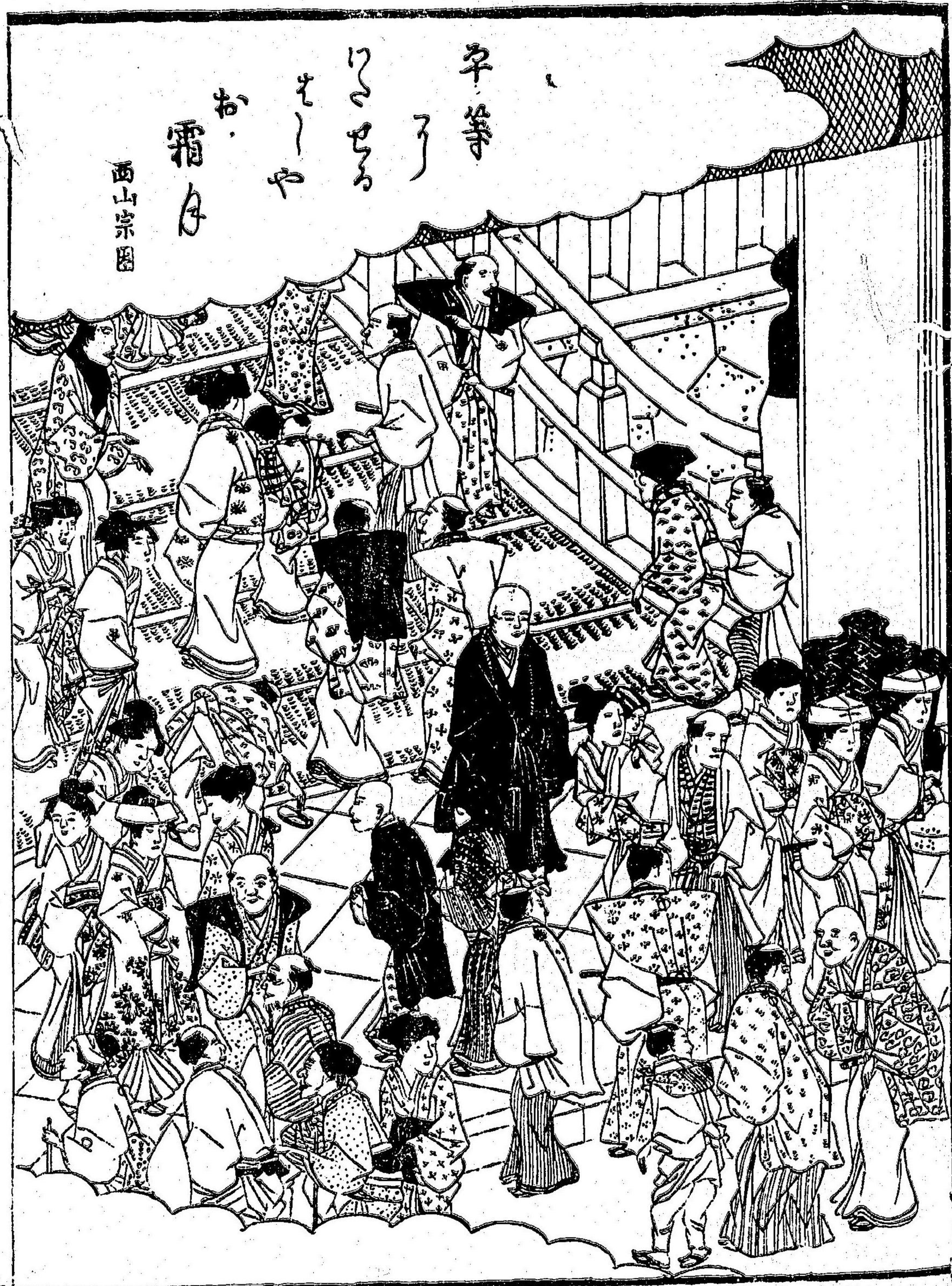
西福寺



新堀
浄念寺
東漸寺
龍寶寺







東奉願寺

新堀端大通小のり宛山教如上人其先奉山の住

徹たてしと豊臣家のをかくひとと頼如上人の舎敷を奉寺の門跡小定お

らと教如上人とて故多く退隱しり裏屋舗小並れしと

神祖音心 百出され宛祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の末を

新御堂屋舗成下賜る夫より後東西とりかゝる

一寺成建く京都よりの輪番野とありに中の内徒を勧化す

御縁館とるる

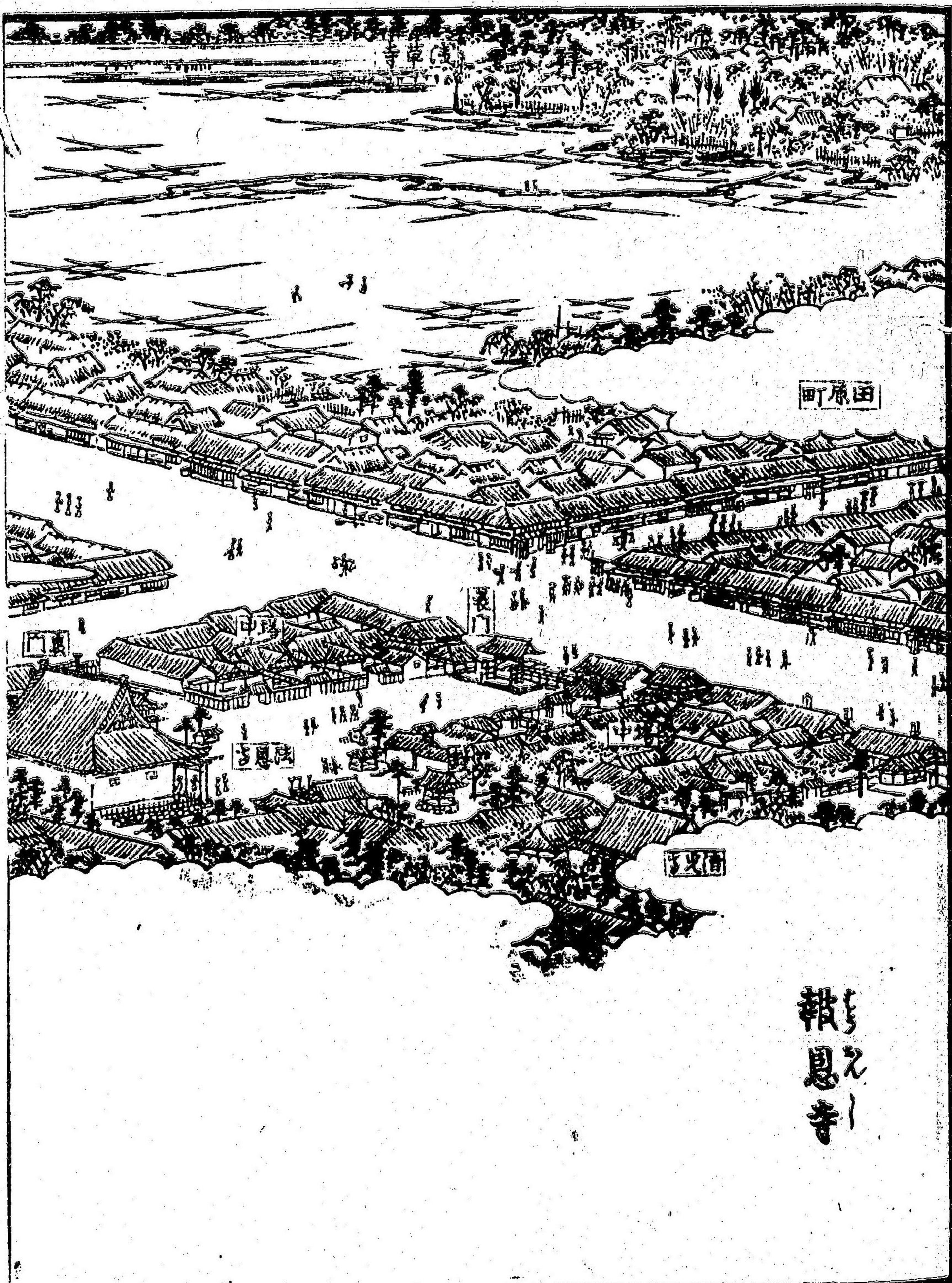
五花會 毎年七月七日真行と 宛山忌 毎年土月廿四より廿八日までの間續行後法事あり

高龍山報恩寺 謝徳院と号し東奉願寺の東小隣る一向池とて宗

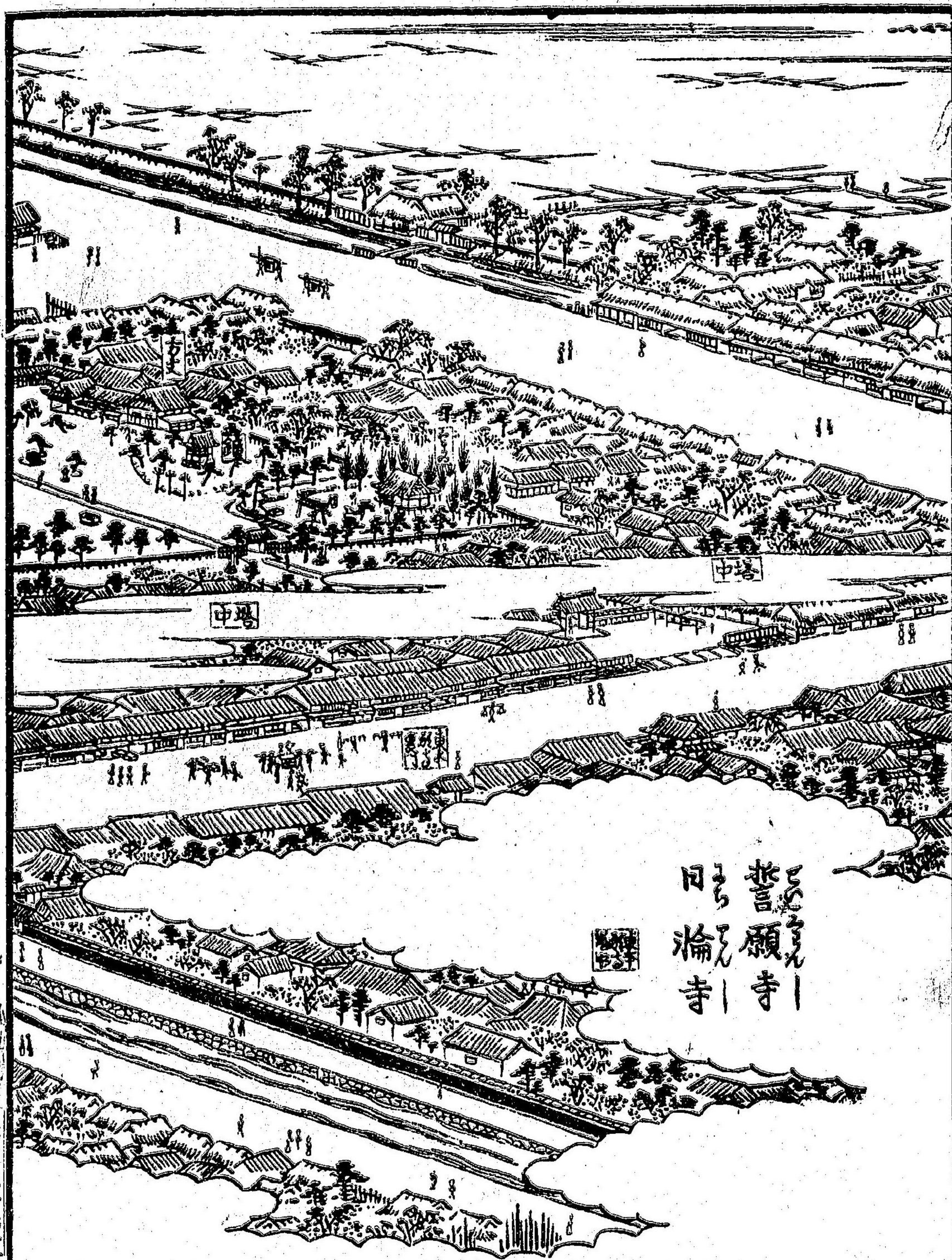
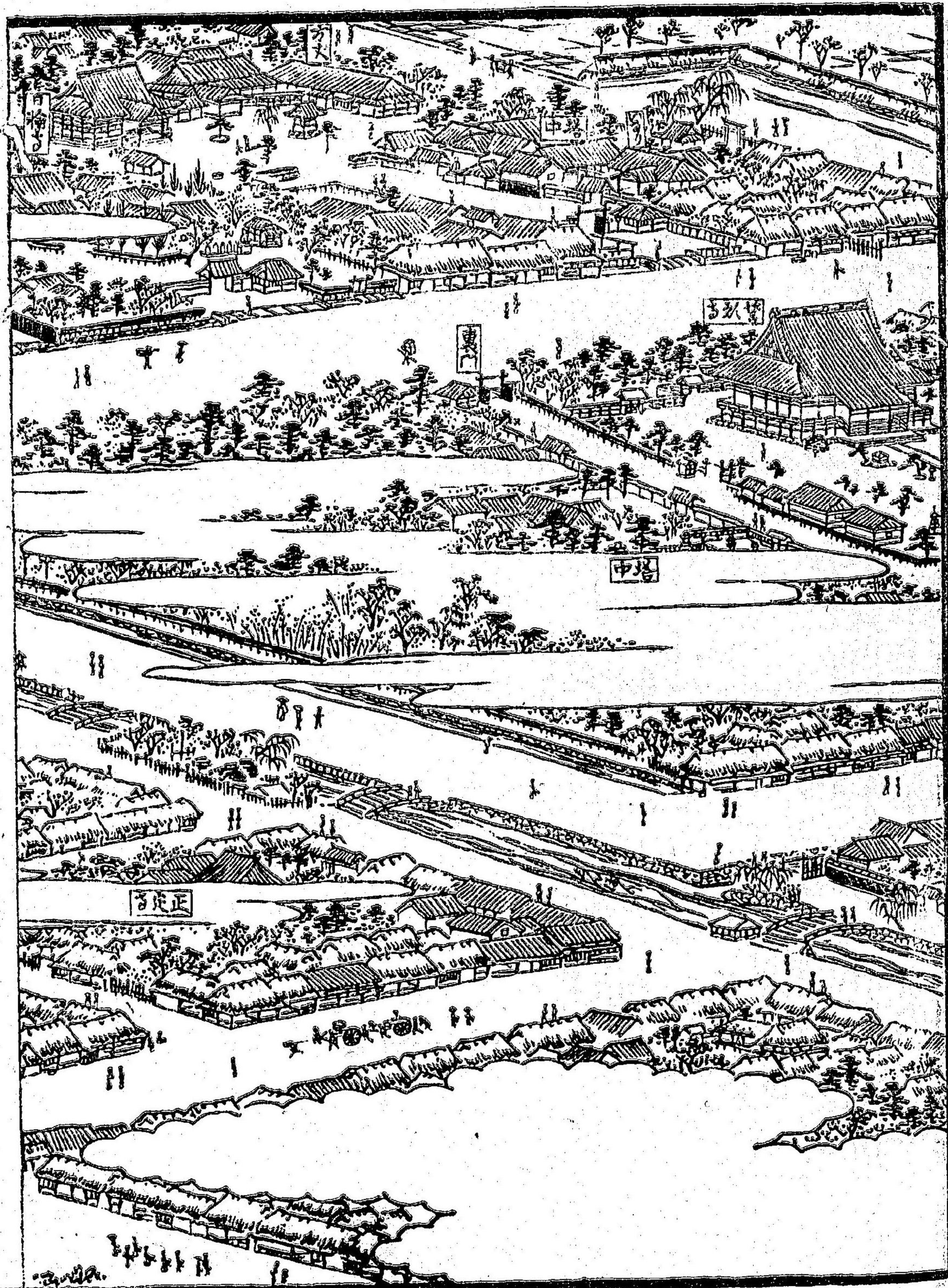
祖上人の遺跡二十四葦野の随一ありあまふ下總國豊田の左横曾

根に有る數十世後結陣の城主七郎左衛門晴朝の臣又賀吉行某

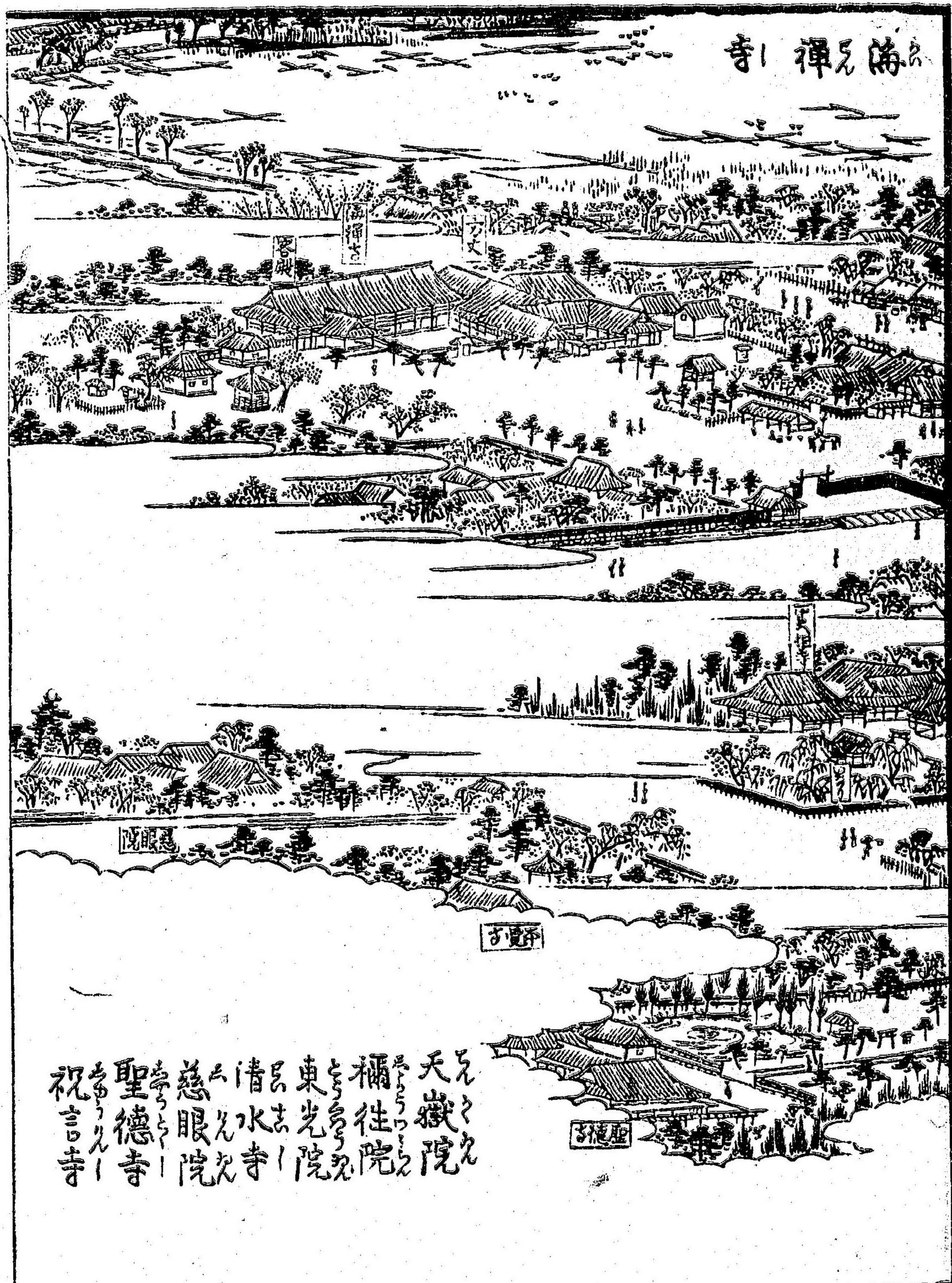
とつる者の五よ寺領田等を等と押領せしと終り武刃初後



報恩寺



普願寺
日瀾寺



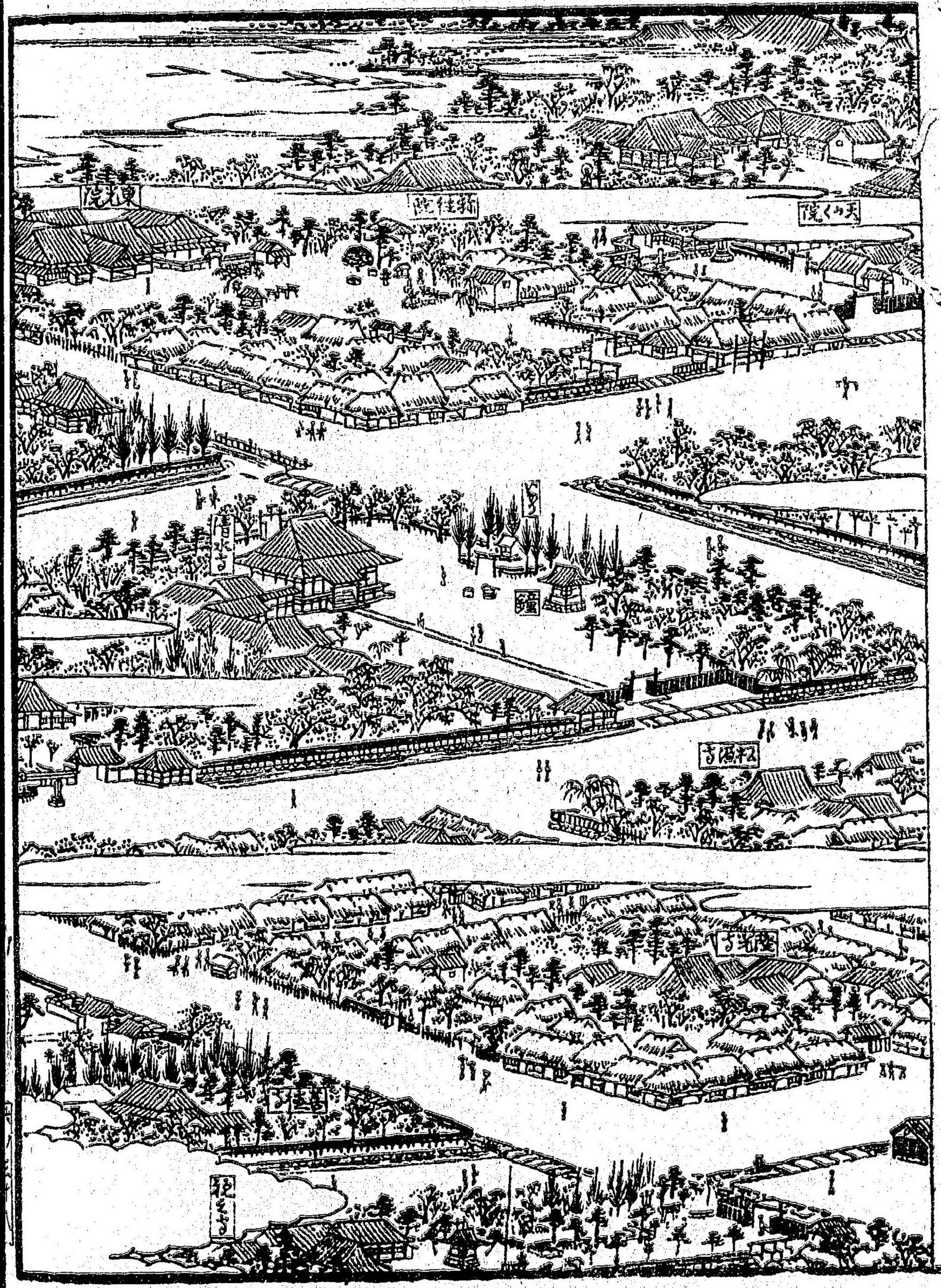
海元禪寺

眼院

寶寺

寶寺

天藏院
 禪往院
 東光院
 清水寺
 慈眼院
 聖德寺
 祝言寺



天院

禪往院

天院

寶寺

光院

寶寺

田小ありのり後八丁堀に延り明曆火後今の地なる舊地根根のり今

猶存 吳山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之幼名と與田郎といハ

天性多力勇悍心狼戾しく禮法とまらん唯漢獵殺生と事とするのこ

十八年の春 紀の熊野山に詣り歸ると洛陽小るり適東山

吉水に及びて法慈上人化力奉願の言を説めんと髪頭は鬢髪と

薙て佛門にいんを頼み依り性信と名を授く夫より鬢師に隨

て昼夜側をこくと師尤遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二

年師下總に往り六は群生を化を同國横曾根のるり朽敗の古刹の

と性信とて住りむ其後貞永元年竟小師の命小應り彼地を還り

大に東冥を化度とんと念佛門を弘通する小道信元満り場小溢

る多小とて古刹再興の志願を企り其地を求りこ小泊あり飯沼

とより則是を便埋り佛圖を營り報恩寺と号すと則是の

側り天満神の初めり同年十一月七日此神老弱と化り此神の

師弟の約懇懃する此時紫の片懐一重 又天福元年正月十日此神何

某の夢小告り曰く是より後永く師資の禮讓とて御衣洗の鯉魚を

報恩寺に贈るへり云云依鯉魚二喉と捕り師小贈り師も又是を謝せんり神

前小鏡餅二枚と供と此賜答の例今もあはるる意慢り 海城正月十日飯沼天林の御衣洗の

返れりて鏡餅と供と則報恩寺に送り性信房のあり供とせり又報恩寺よりとも

同廿五日初連弁と真行の後鏡餅を宗元經り小を同加とす 建長二年の頃性信夢るるの

あつと與列山中より自過去生の枯骨を得り其地は寺を營りて法徳寺と号せし中古

竟建治元年七月十七日下總よりいり寂と示と化壽八十九以上屏山傳の要

寺寶 親鸞上人壽像 有し排子と持りたる珠粒と持り嘉貞己未年性信坊洛陽小るる

同九字名號 同宗祖上人 殊敷一連 觀音上人より性信坊の場小 性信坊過

去生骨 夢想に依り真如の場 修行信證一部六卷 年上人帰洛のとき性信坊の

蛇反鏡 根の古鏡は佳きる 眞其の信は悪龍す心で備もされし宗を

性信是は銀とんとするよかり空く年をさるるゆり移るあると凡斗の僧一人まの山門の傳

熟睡の時中より悪龍とて彼僧を呑いとせりる懐中より寸鏡飛りて彼悪龍を降く又

傍に一字の草庵と結ひ芝崎道場と号す 後醍醐天皇の御代 其後あまのの聖霜を

狂く慶長年中神田明神の役行臺へ遷され當寺の柳屋のりとも地を

賜ふ又明曆の頃今の地より 寺傳云く住持より由緒より今も隔年九月十五日

神田明神祭禮執行の時いさまたし上入以下衆僧も社

光明山天嶽院 通照寺と号す日輪寺の西に隣る淨社の法窟より天正

年中善空上人草創と云山に圓蓮社備嘗上人と号たり奉尊牛嶋觀世

音菩薩の唐佛より順德帝建保年中相列鎌倉鶴岡の社僧良真傍者

入宋の時音玉山能仁寺より移來するの境ありと其後豊右衛門の幕が

津田勝重と云る者此像と感得と息え重伊賀國牛島と云ふに云る頃此

靈像の昔よりと群賊の蜂起と治め武威を國中に振ひて依人民伏して

牛島殿と稱す其後之東當國に遊る頃改めて當寺に依り則ち

内に牛島を重の墳墓あり當寺舊の浅草橋のりよりありと明曆

回祿の後此地に移る

一心山 權社院 是西に隣る捨世寺と号す淨土宗より奉る阿彌陀

如來の丈六の座像より惠心僧都の作り脇に觀音聖至の三菩薩を

安置す此山の幡蓮社白誓松住上人 此の飯田氏の野別 當寺昔の小田原

よありと慶長年中當國へ移され陽島に地を賜ふ後榎今の地小

列せり捨世一派常行念佛の道場より殊勝あり 當寺は田光大師

藥王山東光院 同く西に隣る雙王寺と号すと天合より東嶽山小島寺本

尊溜鳩光如來の像の佛と春日の作りは多慈覺大師當寺と草創

ありと往古の顯密二教ともなると宗一百八箇寺の總本寺たり

中右右田道灌此靈像を崇めり此地の鬼門に置又其後慶長年中日光

御門主一品尊教は親王山門を動寺の松林坊賢海法印より仰て再興せ

ひ

神祖神政院主の命ありとに隆長父の御祈禱より正五九月小大般若經轉

讀よりぬ 此例今も此寺の御代より傳へて其後一傳りて其の地

此例今も此寺の御代より傳へて其の地

建長二年の夏
 性信は、想より
 生みの枯骨の不在と
 あり、奥州信夫郡
 お湯山に、師の
 骨あり、師云く
 此骨は、我過まきの
 枯骨あり、汝
 是を捨て
 得まじと
 獵人云く
 我業を
 明日の糧
 也
 性信は、
 信は、獵者



持とらるの
 石よは投すれ
 其翁とのれと
 幾一鹿を射
 師則是とめ
 獵人路をひき其れ
 のらとと惜り
 木下と空をら既
 枯骨を得られ性
 信坊歡喜踊躍
 竟其地を射
 の精舎を
 号々法得寺
 とらる



しつと良し久和尚宛山たり往來の邊祝言村とつるよありて天
文二年の頃方内道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此比遷する

日蓮大菩薩 同所新寺町より半丁より西南のよりあり安立山長遠寺

小安置す信云往古是洛南禪寺の普門禪師少半日天子と信託し

一朝日輪の中より菩薩の尊影を拜を依て自筆とて親曼を撰

一奉り靈告より弘長元年辛酉六月遷し安東より豆列伊

東より同日日蓮上人の謁し彼二尊の慈眼を乞求む則上人の慈眼

供養ありて花押を添らる又禪師深上人の徳澤を慕ふなり大士

自肖像を造る禪師のより贈らる 禪師帰寂の後京

師要法寺より又安東寺より安置しなり故ありて文禄三年の

頃安東寺より遷せり

神内山幡隨意院 新知恩寺より浄家十八檀林の一室より奉

尊阿弥陀如来の安阿弥の作あり 妙龍水

山幡隨意院の撰述は高田の撰述なり一七日の間別時行の
撰述なり其の撰述は上人の撰述なり其の撰述は上人の撰述なり

宛山廣蓮社智賢上人の撰述なり 幡隨意白蓮と号す相州藤澤郷善

行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十五日生る兒に

る時常に佛像を獲し妙門を教す九歳よりその頃出家せんものとそ

いこととも父母是と許す既して十一歳竟小同國を繩邑二傳寺の範普

上人に投て落髮授戒し幡隨意と号す爾来乃こと経歴し数回の年

序を授宗要の玄微を究む 慶長七年壬寅十一月

小徳園買宿し大徳寺に草創し又 洛陽知恩院に住職

す此時紫服を賜り鳳闕に登る浄家の秘蹟を講とま上下大に威感

あり同九年甲辰東武の招より再び此比小下向し神田の曇小

比をぬり一字の林九刹を闕し神田山新知恩寺と号す

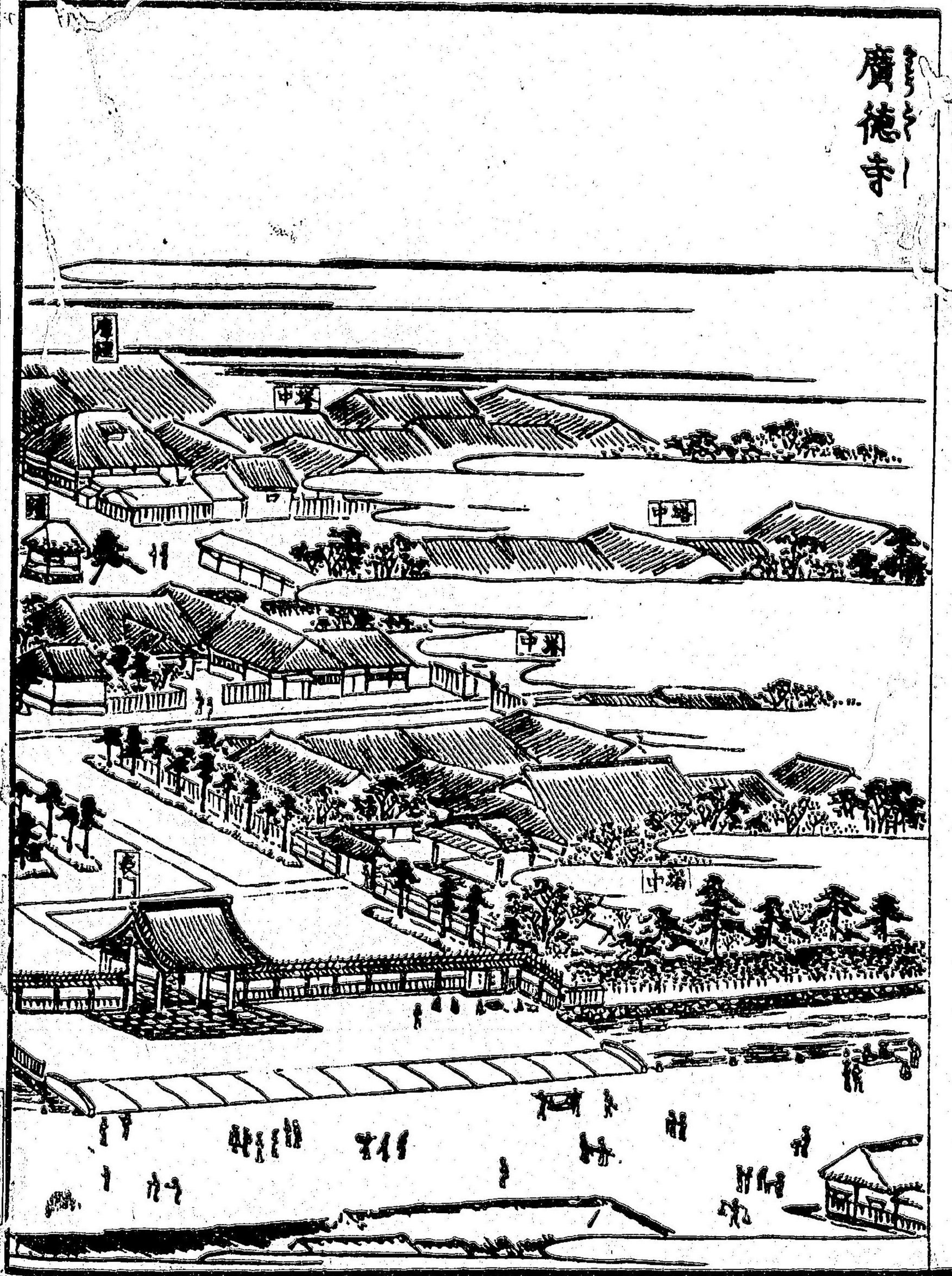
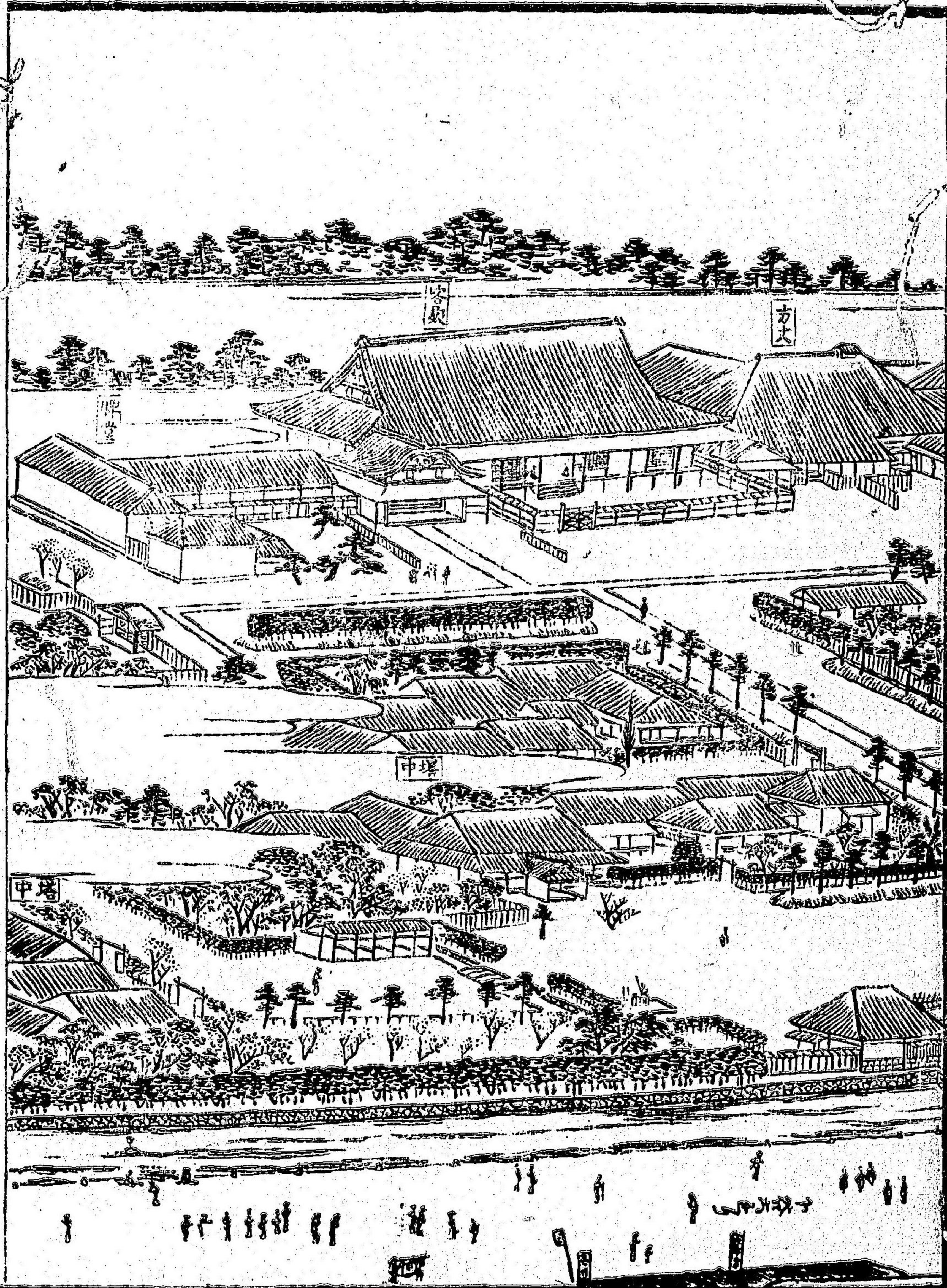
三年庚申 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵の

三年庚申 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵の

三年庚申 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵の

三年庚申 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵の

三年庚申 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵の





下等稲荷明神社



阿比の山に於て天正十九年丙申松浦家の
母儀永昌院再興の由とあり則境内に長者の墳墓あり

圓満山廣徳寺 同所より大徳寺流の禪宗より始相の如小田原

よりありて天正十九年丙申松浦家の
其後寛永の末今の比に於て

山に希叟宗芋禪師より

其の地は古の法隆寺の遺蹟なりと云ふ事ありて其の地を
類する所の地ありて其の地を

下谷稻荷社 廣徳寺の向の側よりありて俗に廣徳寺の稻荷と稱す

是れ大の稲荷の地ありて正法院とありて祭神の倉稻魂命よりて奉祀す

面觀世音の行基大士彫刻の靈像ありてその中の鳥井山に依稻荷大

明神と書る額ありて崇徳院と寛法親王の真蹟ありて拜殿に掲ぐる

同神号の額に蓮光院道愨の筆ありて其の社祭れを備事二月

十日に執行す下谷の鎮守と稱す

